

科目名	看護学概論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-00. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N30001		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 看護学概論では、「看護とは」なにかを探求する。そのため授業では、看護の歴史の変遷、看護を説明する概念、看護理論、看護の対象や役割など看護の基礎となる知識を学び、人間が健やかに生きることを支える看護のあり方、社会の中での看護の役割を理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象・役割・機能が説明できる。 2. 現在の看護に至るまでの歴史の変遷について説明できる。 3. 主な看護理論の主要概念が理解できる。 4. 自己の看護観を人に伝えることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	コースオリエンテーション 看護の概念 (1)		1. 科目の位置づけ、授業の概要、履修上の留意事項 2. 看護とは						講義	
第2回	看護の概念 (2)		看護の語義・定義						講義	
第3回	看護の歴史の変遷 (1)		原始古代社会における看護、宗教上の信仰に基づいた看護、職業的看護の発達、看護の専門化の歩み						講義	
第4回	看護の歴史の変遷 (2)		ナイチンゲールの看護論						グループワーク	
第5回	看護の歴史の変遷 (3)		ナイチンゲールの看護論						プレゼンテーション	
第6回	看護の役割・機能 (1)		看護における健康とは						グループワーク	
第7回	看護の役割・機能 (2)		看護における健康とは						プレゼンテーション	
第8回	看護の対象 (1)		中間テスト/看護における人間の捉え方とは						講義	
第9回	看護の対象 (2)		看護における人間の捉え方とは						グループワーク	
第10回	看護の役割・機能 (3)		チームケア (医療) における看護の役割						講義/ グループワーク	
第11回	看護理論の変遷 (1)		主要な看護モデルと理論						講義 (オンデマンド)	
第12回	看護理論の変遷 (2)		看護理論とは						グループワーク	
第13回	看護理論の変遷 (3)		看護理論とは						プレゼンテーション	
第14回	看護における倫理		看護実践と倫理						講義	
第15回	まとめ		まとめ						講義	
授業方法 (オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	発表、ポスター作成								
評価方法及び評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・2/3以上の出席者に対して、筆記試験 (80%)、レポート (20%) により評価します。 ・レポートは、授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。 									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・主題について関連する内容を事前学習してください。 ・週当たり3時間程度、授業外に自ら学修を進めましょう。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・茂野香おる他：系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 第17版, 医学書院, 2023. 978-4-260-03862-1 ・フロレンス・ナイチンゲール：湯楨ます他訳, 看護覚え書－看護であること 看護でないこと－第8版, 現代社, 2023. 978-4-87474-199-3 ・バージニア・ヘンダーソン：湯楨ます, 小玉香津子訳, 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会, 2016. 978-4-8180-1996-6 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ姿勢をもって授業に臨んでください。また、医療をとりまくさまざまなニュースに注意し、看護との関連について考えてみましょう。 ・本科目の単位修得は、「基礎看護学実習 I」を履修するための必要要件になっていることに留意してください。 									

科目名	対象論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-35. S N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期
			科目コード	N30036	時間	15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	阿部 智美 (実務経験のある教員)			授業形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 看護の対象を捉えるために必要な基礎的事項を学ぶ。また、基礎的な理論や事例等から看護の対象を理解する視点を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2.5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1.5-1に関連する</p>									
到達目標	<p>1. 看護の対象を捉えるために必要な基礎的事項が理解できる。 2. 基礎的な理論や事例等から看護の対象を理解する視点を養う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 看護の対象理解		オリエンテーション 看護の対象（個人や集団）の理解						講義 グループワーク	
第2回	個人の理解		個人とは 個人のとらえ方 重要他者						講義 グループワーク	
第3回	発達段階ごとの個人の理解		小児期、成人期、老年期						講義 グループワーク	
第4回	健康状態ごとの個人の理解		健康維持・増進期、急性期、回復期、慢性期、終末期						講義 グループワーク	
第5回	生活と療養の場ごとの個人の理解		病院、地域・在宅、施設での生活・療養						講義 グループワーク	
第6回	集団の理解		集団とは 集団の特性						講義 グループワーク	
第7回	家族という集団の理解		家族とは 家族のとらえ方						講義 グループワーク	
第8回	地域社会という集団の理解		地域社会とは 地域社会のとらえ方						講義 グループワーク	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	クイズ、小テスト	リフレクションシート							
評価方法及び評価基準	<p>・2/3以上の出席者に対して、振り返りシート（80%）、課題（20%）により評価します。 ・課題は授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。</p>									
課題等	グループワークを効果的に行うために課題を提示します。									
事前事後学修	<p>・主題について関連する内容を事前学習してください。 ・週当たり1.5時間程度、授業外に学修を進めましょう。</p>									
教材教科書参考書	<p>・看護がみえるVol.5対象の理解 I, メディックメディア, 2023. 978-4-89632-923-0 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。</p>									
留意点	<p>・本科目は選択科目ではあるが、他の科目や臨地実習における対象理解の基礎となる。 ・授業ではグループワークにより、学生同士の意見交換を通して対象理解を深めていく。</p>									

科目名	医療・看護倫理		科目ナンバリング	N-NP BN 2-01.H N	単位数	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30002	時間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	五十嵐 靖彦				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 専門職としての看護業務を、適切かつ有効に遂行するための規範となる心構えや行動原理について、倫理的視点から考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1に関連し、カリキュラムポリシー1-1と関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 看護とは人間関係一般の中でも、特殊・微妙な職域であることを理解できる。 2) その業務を全うする上では、特に倫理的配慮が大切であることを理解できる。 3) その倫理的配慮の中では、なによりも生命の尊厳、人権の尊重という価値観を深く身に付ける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	倫理とは			倫理の語義とそれを研究する倫理学についての説明					9/26(金)3限	
第2回	倫理一般と領域倫理			社会人として心得るべき一般倫理と職域ごとの特殊化される倫理について					10/3(金)3限	
第3回	医の倫理について			医療に関連した職域分野の種々の倫理綱領について					10/17(金)3限	
第4回	看護倫理の概念と歴史			ナイチンゲールから現代までの看護倫理の歩み					10/24(金)3限	
第5回	看護関連のキーワードの解説			人間の尊厳、インフォームド・コンセント、アドボカシー等々					10/31(金)3限	
第6回	同上			続講					11/7(金)3限	
第7回	看護研究と倫理的配慮			研究倫理を審査する倫理委員会について					11/14(金)3限	
第8回	事例研究			こういう場合どう判断し、どう行動すればよいか					11/21(金)3限	
授業方法(オンデマンド、ライブ・ラーニング等)										
評価方法及び評価基準	平常点（出席状況や授業中の受け答え 10%）と期末テストの成績（90%）の合算。									
課題等	なし									
事前事後学修	なし									
教材教科書参考書	<p>教科書は使用しない。毎回資料を配付する。 参考文献は以下 五十嵐靖彦著『現代社会と倫理』花伝社 2019 石井トク編『看護倫理』学研プラス 2014、小西恵美子他編『看護倫理』南江堂 2012 島崎玲子他編『看護学概論』4版 医歯薬出版 2012</p>									
留意点	毎回授業の終わりに、次回の授業に関連したテーマや文献について当たっておくようにと指示する。配付される資料はかなりの量になるはずなので、散失しないよう整理し保存すること。									

科目名	看護過程論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-02.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30003		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 看護援助の目的を理解し、看護の対象のニーズに応じた問題を解決するために、科学的思考、問題解決的思考を基に看護の過程における問題解決の方法を習得する。看護を展開するための基礎的知識を用いてクリティカルシンキング能力を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概念、概要、意義を理解できる。 2. 看護過程におけるアセスメント、看護診断、看護目標、看護計画、実施、評価を理解できる。 3. 紙上事例を用いた看護過程を展開し、看護計画を立案できる。 4. 看護実践における記録の必要性・方法を理解できる。 5. 看護過程の学習を通して、看護における科学的・論理的思考の必要性を理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 看護過程の概要と構成要素 問題解決過程と看護過程		1. 科目の位置づけ、授業の概要、履修上の留意事項 2. 看護過程の概要と構成要素 3. 問題解決過程と看護過程						講義	
第2回	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 看護アセスメントの枠組み		1. 看護過程の段階（ステップ） 2. 看護アセスメントの枠組み 3. 看護過程におけるアセスメント（情報収集、解釈/統合）						講義	
第3回	ゴードンの機能的健康パターン		1. ゴードンの機能的健康パターン 2. ペーパーパーシエントの説明						講義/グループワーク	
第4回	アセスメントー1		アセスメント（演習ー1）：ペーパーパーシエントのアセスメント						グループワーク	
第5回	アセスメントー2		アセスメント（演習ー2）：ペーパーパーシエントのアセスメント						グループワーク	
第6回	看護上の問題の明確化と看護診断		1. アセスメントから看護診断へ 2. NANDA-I看護診断分類 3. 共同問題						講義	
第7回	アセスメントー3		アセスメント（演習ー3）：ペーパーパーシエントのアセスメント						グループワーク	
第8回	全体像（関連図）とは		1. 全体像（関連図）とは 2. 全体像（関連図）作成について 3. 看護診断、優先順位の決定						講義	
第9回	全体像（関連図）とは		全体像（演習ー1）						講義/グループワーク	
第10回	看護診断・優先順位の決定		全体像（演習ー2）：看護診断、優先順位の決定						グループワーク	
第11回	看護計画		1. 看護計画とは 2. 看護計画の構成要素						講義	
第12回	看護計画		看護計画（演習ー1）：ペーパーパーシエントの看護計画						講義/グループワーク	
第13回	看護計画		看護計画（演習ー2）：ペーパーパーシエントの看護計画						グループワーク	
第14回	看護記録		1. 看護記録の意義および目的、その種類 2. 看護記録における法的規制 3. 看護記録のあり方（秘密保持や責任の所在、保管上の留意事項）						講義	
第15回	発表会		事例の看護計画について						プレゼンテーション	
授業方法(授業の工夫・アクティブラーニング等)	グループワーク		発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（80%）、レポート（20%：4回分）により評価します。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。									
課題等	グループワークを効果的に行うための課題を提示します。									
事前事後学修	・事例を提示し、事前学習課題を配布します。 ・週当たり3時間程度、授業外に自ら学修を進めましょう。									
教科書参考書	・任和子編著：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド第2版、照林社、2022。ISBN978-4-7965-2549-7 ・T.ヘザー・ハードマン：上鶴重美訳、カミオ・タカラ・ロベス、NANDA-I看護診断 定義と分類2024-2026 原書第13版、医学書院、2025。ISBN978-4-260-05712-7 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。									
留意点	・グループワークは学生が主体となって進めますので、そのための準備をして臨みましょう。 ・関連科目、特に「人体の構造」「人体の機能」「看護学概論」「基礎看護技術論」のテキスト、その他の参考書や資料を持参してください。 ・本科目の単位修得は、「基礎看護学実習Ⅱ」を履修するための必要要件になっていることに留意してください。									

科目名	基礎看護技術論		科目ナンバリング	N-NP BN 2-03.H N		1単位 30時間	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目コード	N30004						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子、阿部 智美 (実務経験のある教員)			授業形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。看護の対象との相互関係において看護を実践できる能力の基礎を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2.5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	1. 人間を対象とする技術の構成要素および看護技術とは何かを理解する。 2. 看護行為に共通する援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション 看護技術とは何か		オリエンテーション 看護技術の特徴と構成						幸山	
第2回	人間関係を成立・発展させるための技術		コミュニケーションの概念、コミュニケーションの基本原理、 コミュニケーションを成立させる要素、対人関係の振り返り						阿部	
第3回	快適な環境をつくる技術		看護における環境の意義と病床の環境、環境のアセスメント						阿部	
第4回	快適な環境をつくる技術 (1)		環境整備、ベッドメイキング						演習	
第5回	快適な環境をつくる技術 (2)		環境整備、ベッドメイキング						演習	
第6回	休息・睡眠を促す技術		休息・睡眠の意義、休息・睡眠の生理的メカニズム、休息・睡眠の ニーズに関するアセスメント						幸山	
第7回	安全を守る技術		医療安全の意義と確保、主な医療事故とその予防策						幸山 オンデマンド授業	
第8回	まとめ		授業の総括 (中間)						幸山	
第9回	活動・運動を支援する技術		移動と移送 (車椅子、ストレッチャー)						阿部	
第10回	活動・運動を支援する技術 (1)		移動と移送 (車椅子、ストレッチャー)						演習	
第11回	活動・運動を支援する技術 (2)		移動と移送 (車椅子、ストレッチャー)						演習	
第12回	食事・栄養摂取を促す技術 (1)		食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント						阿部	
第13回	食事・栄養摂取を促す技術 (2)		食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント						講義 (ゲストスピーカー)	
第14回	食事・栄養摂取を促す技術		食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント						演習	
第15回	まとめ		授業・演習の総括						幸山、阿部	
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ロールプレイング								
評価方法及び評価基準	・2/3以上の出席者に対して、定期試験(90%)、受講態度・レポート(10%)により評価します。 ・レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。									
事前事後学修	・講義前には事前学習課題を配布します。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出してください。 ・週当たり1.5時間程度、授業外に学修を進めましょう。									
教材教科書参考書	・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院, 2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。									
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し実践方法の根拠として関連させて学習するようにしてください。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要です。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意しましょう。									

科目名	基礎看護技術演習Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-04. H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	前期
			科目コード	N30005	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子 (実務経験のある教員)			授業形態	演習	回数	複数
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>基礎看護技術論を基礎に、看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。演習では患者・看護師のロールプレイを通して、看護における人間関係のあり方も理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2.5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 5-1に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. 対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。</p> <p>2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。</p> <p>3. 看護職者として必要な態度を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	感染予防を推進する技術		感染予防の意義 感染症を成立させる要素と成立過程 感染予防のための援助方法						阿部	
第2回	感染予防を推進する技術		手指衛生：流水と石けんによる手洗い 擦式消毒用アルコール製剤による手指消毒						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第3回	安楽かつ快適さを確保する技術		安楽な体位 ボディメカニクス 体位変換						阿部	
第4回	安楽かつ快適さを確保する技術		体位変換とボディメカニクス						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第5回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定		バイタルサインとは 意識 呼吸						阿部	
第6回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定		体温 脈拍 血圧						阿部	
第7回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術		結果の解釈と報告 身体計測						オンデマンド授業 阿部	
第8回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定		バイタルサインの測定方法						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第9回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定		バイタルサインの測定方法						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第10回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定		バイタルサインの測定方法						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第11回	技術チェック								阿部・幸山	
第12回	技術チェック								阿部・幸山	
第13回	まとめ		講義の総括						阿部	
第14回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術		身体計測						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第15回	まとめ		演習の振り返り						阿部	
授業方法(オンライン・対面・ブレンド等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験(45%)、実技試験(40%)、レポート(15% 5回分)により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ、メディカ出版、2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ、メディカ出版、2022. 978-4-8404-7537-2 ・相模と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版、医学書院、2021. 978-4-260-04790-6 ・看護がみえるVol.3フィジカルアセスメント、メディックメディア、2019. 978-4-89632-781-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造」「人体の機能」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意すること。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-05. H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期
			科目コード	N30037	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子 (実務経験のある教員)			授業形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>基礎看護技術論・基礎看護技術演習Ⅰを基礎に、看護の対象者の日常生活を整え、より健康的な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。清拭、寝衣交換、洗髪、部分浴、排泄の援助などの援助技術を習得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2.5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 5-1に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. 対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。</p> <p>2. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。</p> <p>3. 看護職者として必要な態度を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	身体の清潔を援助する技術		清潔の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 清潔ニーズのアセスメント 清潔の援助方法						阿部	
第2回	身体の清潔を援助する技術		演習：臥床患者の寝衣交換						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第3回	身体の清潔を援助する技術		清潔の援助方法						阿部	
第4回	身体の清潔を援助する技術		演習：臥床患者の全身清拭 寝衣交換①						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第5回	身体の清潔を援助する技術		演習：臥床患者の全身清拭 寝衣交換②						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第6回	身体の清潔を援助する技術		清潔の援助方法						阿部	
第7回	身体の清潔を援助する技術		演習：臥床患者の洗髪①						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第8回	身体の清潔を援助する技術		演習：臥床患者の洗髪②						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第9回	身体の清潔を援助する技術		演習：部分浴（足浴）						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第10回	感染予防を推進する技術		感染症を予防するための技術						阿部	
第11回	感染予防を推進する技術		演習：無菌操作（滅菌手袋の着脱 滅菌物の取り扱い）						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第12回	排泄を促す技術		排尿・排便の意義と生理学的メカニズム 排尿・排便のニーズのアセスメント						阿部	
第13回	排泄を促す技術		排尿・排便の援助						阿部	
第14回	排泄を促す技術		演習：導尿						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第15回	排泄を促す技術		演習：浣腸						阿部・幸山 演習 グループワーク	
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（40%）、実技試験（40%）、レポート（20% 6回分）により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナースング・グラフィカ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナースング・グラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院, 2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の授業科目、特に「人体の構造ⅠⅡ」「人体の機能ⅠⅡ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意すること。 									

科目名	基礎看護技術演習Ⅲ		科目ナンバリング	N-NP BN 2-06. H N	単位数	1単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目コード	N30038	時間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子 (実務経験のある教員)			授業形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 基礎看護技術論・基礎看護技術演習ⅠⅡを基礎に、主に治療を受けている患者に治療・処置を安全かつ安楽に行う援助方法を学ぶ。与薬、酸素療法などの基本的治療行為の援助技術について習得する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2.5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 5-1に関連する。</p>									
到達目標	1. 生命活動を支える技術、治療・処置に伴う援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 2. 治療・処置を受ける対象者の心身の状態を理解し、援助方法を習得する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術		検査とは 検査の援助 治療・処置						阿部	
第2回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術		演習：静脈血採血①						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第3回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術		演習：静脈血採血②						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第4回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術		与薬とは 薬物療法と看護 与薬のための基礎知識 与薬における安全管理						阿部	
第5回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術		与薬のための援助技術 注射のための援助技術						阿部	
第6回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術		演習：皮下・筋肉内注射①						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第7回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術		演習：皮下・筋肉内注射②						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第8回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術		注射のための援助技術 輸血のための援助技術						阿部	
第9回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術		演習：点滴静脈内注射①						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第10回	与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術		演習：点滴静脈内注射②						阿部・幸山 演習 グループワーク	
第11回	皮膚・創傷を管理する技術		皮膚・創傷を管理するための基礎知識 創傷の分類と治癒過程 創傷の管理 褥瘡の管理						阿部	
第12回	呼吸を楽にする技術		呼吸とは 呼吸の生理学的メカニズム 呼吸のニーズに関するアセスメント						阿部	
第13回	呼吸を楽にする技術		呼吸を楽にする援助						阿部	
第14回	体温を調節する技術		体温調節 薬法						オンデマンド授業 阿部	
第15回	呼吸を楽にする技術		演習：酸素療法 一時的吸引法						阿部・幸山 演習 グループワーク	
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験(45%)、実技試験(40%)、レポート(15% 5回分)により評価する。レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。									
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。									
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。									
教材教科書参考書	・ナースング・グラフィカ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナースング・グラフィカ 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ, メディカ出版, 2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院, 2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する									
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅱ」「人体の機能Ⅱ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。									

科目名	ヘルスアセスメント		科目ナンバリング	N-NP BN 2-07. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期	
			科目コード	N30007		30時間					
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山靖子、阿部智美、宇田宗弘、田中真実 (実務経験のある教員も含む)			授業 形態	講義	オムニバス		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>人体の構造や機能、基礎看護技術論、基礎看護技術演習Ⅰで学んだ内容などをふまえ、フィジカルイグザミネーションの基本的技術を学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2,5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1,5-1に関連している。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 看護におけるヘルスアセスメントの概念について理解できる。 対象者の主観的・客観的情報を収集するための問診や基本的なフィジカルイグザミネーションを実施する方法を明確にすることができる。 事例を用いて、対象者の身体的および心理・社会的側面から情報を系統的に収集し、対象者の健康状態、生活状況を判断できるための、ヘルスアセスメントの方法について考えることができる。 ヘルスアセスメントを行った内容から看護の必要性を述べることができる。 										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	コースオリエンテーション 看護におけるヘルスアセスメント		看護におけるヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは						幸山		
第2回	フィジカルアセスメントの基本技術		フィジカルイグザミネーションの基本技術 面接・問診、観察からのアセスメント						講義/演習 (グループワーク) 幸山		
第3回	人体の解剖		人体の部位・器官の位置・方向の確認						田中		
第4回	呼吸器系・循環器系のヘルスアセスメント		心臓・血管系のヘルスアセスメント						宇田		
第5回	呼吸器系のヘルスアセスメント		呼吸器系のヘルスアセスメント						幸山		
第6回	呼吸器系のヘルスアセスメント		呼吸器系のヘルスアセスメント						演習/プレゼンテーション 幸山・阿部		
第7回	心臓・血管系のヘルスアセスメント		心臓・血管系のヘルスアセスメント						幸山		
第8回	心臓・血管系のヘルスアセスメント		心臓・血管系のヘルスアセスメント						演習/プレゼンテーション 幸山・阿部		
第9回	消化器系のヘルスアセスメント		消化器系のヘルスアセスメント						宇田		
第10回	消化器系のヘルスアセスメント		消化器系のヘルスアセスメント						阿部		
第11回	消化器系のヘルスアセスメント		消化器系のヘルスアセスメント						演習/プレゼンテーション 阿部・幸山		
第12回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント		筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント						ゲストスピーカー		
第13回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント		筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント						ゲストスピーカー		
第14回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント		筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント						演習/プレゼンテーション 幸山・阿部		
第15回	まとめ		授業の総括						幸山・阿部		
授業方法(ゼミナール、PBL、グループワーク等)	グループワーク	ロールプレイング									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、定期試験(80%)、レポート(20%:4回分)により評価します。 レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。										
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。										
事前事後学修	・事前学習課題や演習後の振り返りを提出してください。 ・週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。										
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能①解剖生理学(第5版)、武田裕子・林正健二 編、MCメディカ出版。978-4-8404-7831-1 ・ぜんぶわかる人体解剖図、成美堂、坂井建雄、橋本尚詞。978-4-415-30619-3 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ、メディカ出版、2022。978-4-8404-7536-5 ・看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント、メディックメディア、2019。978-4-89632-781-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。										
留意点	既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習しましょう。										

科目名	地域包括ケアシステム論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-42. H N	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30059						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	川村 泰子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるような地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）について学ぶ。また、地域のケアシステムの現状と課題を理解し、看護職が果たす役割を考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー1、2、3に関連し、カリキュラムポリシー教育方法1・3に関連する</p>									
到達目標	<p>1. 地域包括ケアの目指しているものについて考えることができる。</p> <p>2. ライフスタイル、健康レベルに応じた地域のサービスについて理解できる。</p> <p>3. 地域で生活する人々の支援にかかわる専門職の役割について理解できる。</p> <p>4. 地域包括ケアの取り組みを理解できる。</p> <p>5. 地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携・協働の意義を説明できる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	人々の暮らしと地域			地域における人々の暮らしと健康						
第2回	暮らしの基盤			暮らしと地域						
第3回	地域で看護の対象とする人々（1）			ライフステージによる多様性						
第4回	地域で看護の対象とする人々（2）			家族の理解					グループワーク プレゼンテーション	
第5回	暮らしを支える看護（1）			暮らしを支える看護						
第6回	暮らしを支える看護（2）			ライフステージによる多様性に応じた支援						
第7回	暮らしを支える看護（3）			リスクを抱える人々への支援						
第8回	暮らしを支える看護（4）			暮らしの中の災害対策						
第9回	ケアシステムと社会資源			さまざまな場、職種で支える地域での暮らし						
第10回	地域看護にかかわる制度（1）			介護保険制度・医療保険制度						
第11回	地域看護にかかわる制度（2）			医療供給体制						
第12回	地域・在宅看護における多職種連携			医療福祉との連携						
第13回	多職種連携と地域ケア会議			地域ケア会議の意義と方法					グループワーク プレゼンテーション	
第14回	地域包括ケアと看護			看護者の役割						
第15回	地域包括ケアの役割			多職種連携 自助・互助・共助・公助						
授業方法（レクチャー、グループワーク等）	リフレクションシート	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入						
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、課題（個人・グループ）、定期試験等から総合的に評価する。</p> <p>2) 演習とレポート：10%</p> <p>3) 定期試験60%</p> <p>4) リフレクションペーパーはすべての授業提出後に提出することで5%を加算する。</p>									
課題等	リフレクションペーパー、課題（レポート）等は、返却しない。									
事前事後学修	地域包括ケア・地域包括ケアシステム・高齢者支援等に関するニュース等から情報を収集する。									
教科書参考書	<p>教科書：地域在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤第6版 医学書院 2022年 ISBN 978-4-260-04689-3</p> <p>参考書：国民衛星の動向 2025/2026</p> <p>・随時、必要な資料等を配布する。</p>									
留意点	<p>1) 授業で紹介された文献などは自己学習に活かす。</p> <p>2) 課題には主体的に取り組む。</p> <p>3) ニュース等を視聴し、社会で起きていることに関心を持つことは不可欠である。</p>									

科目名	在宅療養を支える看護		科目ナンバリング	N-NP NI 2-60. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目コード	N30060		60時間						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田まり子 対馬明美 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>在宅看護の変遷と社会背景を踏まえ、在宅療養の場、療養者と家族に応じた看護活動の現状や課題を学ぶ。さらに、家族看護的なアプローチ、在宅ケアマネジメント、訪問看護制度、退院支援・退院調整、在宅看護過程、医療的ケア・安全管理・多職種連携など事例展開を含め学修する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2・3・4・5・6に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の変遷と社会背景を知り在宅看護の現状を理解する。 2. 在宅療養の場と療養者・家族の特徴と課題を理解する。 3. 在宅療養者を含む家族看護的なアプローチについて理解する。 4. 在宅療養者・家族を支援する訪問看護制度と看護活動を理解する。 5. 在宅ケアマネジメント・退院支援・退院調整について理解する。 6. 事例を通じ、在宅看護過程を展開し、医療的ケア・安全管理・多職種連携などを含む支援の実際を理解する。 									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	リエンション、病院から在宅へ繋ぐ看護	講義の概要、学習ポートフォリオの意義と内容、病院と在宅の継続看護		第16回	在宅ターミナル期の看護(1)	在宅ターミナル期の対象者・条件・緩和ケア、意思決定の支援	DVD学修			
第2回	在宅看護の変遷と現状	日本の在宅看護・在宅看護教育の変遷、社会背景・社会制度との関連		第17回	在宅ターミナル期の看護(2)	在宅における看取りのケア、家族へのグリーフケア	ディスカッション含む			
第3回	在宅看護の場と対象	法制度・リハビリ・健康・障害レベル・疾患から見た対象者と生活の場		第18回	訪問看護の在宅看護過程の展開方法	訪問看護計画に必要な情報の整理・アセスメント・目標・計画・評価の基準				
第4回	在宅ケアにおける在宅看護の特徴(1)	在宅ケアと在宅看護の概念、地域包括ケアシステムに於ける在宅看護	DVD学修	第19回	中間のまとめ・演習のリエンション	客観テスト、グループ演習の概要				
第5回	在宅ケアにおける在宅看護の特徴(2)	在宅看護の倫理と基本理念、在宅療養の成立要因、生活者としての特徴	DVD学修	第20回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第6回	在宅療養者と家族の支援(1)	在宅療養の場における家族の捉え方、家族の介護力のアセスメントと調整		第21回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第7回	在宅療養者と家族の支援(2)	家族関係の調整、ケア方法の指導、家族介護者の健康、レスパイトケア		第22回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第8回	療養の場の移行に伴う看護	医療機関における入退院時の連携、医療施設や介護施設との連携		第23回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第9回	法制度から見た訪問看護の対象者とサービス	介護保険法・健康保険法・高齢者の医療の確保に関する法律、難病法		第24回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案する	グループ演習			
第10回	訪問看護の特徴と訪問看護サービスの機能	訪問看護サービスの設置・管理・運営基準、訪問看護サービスの流れ・内容		第25回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案(リハール)	プレロールプレイ			
第11回	訪問のマナー・訪問看護に関係する記録類	訪問時のマナーの実際、訪問看護に必要な記録(介護保険・医療保険)	DVD学修	第26回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の情報の整理・アセスメント・看護計画を立案(リハール)	プレロールプレイ			
第12回	在宅看護におけるケアマネジメント・ケアマネジメント	介護保険制度におけるケアマネジメントの過程と実践		第27回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の看護計画の1場面を実施(プレゼンテーション)意見交換	プレゼンテーション			
第13回	在宅療養における安全と健康危機管理(1)	在宅看護の危機管理・安全管理、災害時の療養者・家族の健康管理	DVD学修	第28回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の看護計画の1場面を実施(プレゼンテーション)意見交換	プレゼンテーション			
第14回	在宅療養における安全と健康危機管理(2)	人工呼吸器装着の在宅療養者・家族の災害時の看護	DVD学修	第29回	在宅で療養する様々な対象者・家族の看護	課題の8事例中1事例の看護計画の1場面を実施(プレゼンテーション)意見交換	プレゼンテーション			
第15回	在宅の援助技術	胃瘻栄養法・摘便・在宅酸素療法中療養者・家族の在宅における支援のポイント	DVD学修	第30回	まとめ	グループ・自己評価のまとめ、演習及び客観テストの振り返り				
授業方法(学びのデザイン等)	リフレクションシート	グループワーク	ロールプレイング	ロールプレイング	発表、ポスター作成	理解度チェック	授業中のノート取り	クイズ、小テスト		
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席者につき、客観テスト(60%)</p> <p>看護計画・援助の妥当性(30%)：情報の整理・アセスメント・看護計画及び援助の妥当性</p> <p>授業態度・演習への参加状況(意見・発言・参加状況)を演習のルーブリック評価基準に照らし評価</p> <p>学習ポートフォリオ：課題を適切に調べ整理しているか、学習の成果が時系列で整理されているか、自己成長報告書の自己評価の妥当性を含む(10%)</p>									
課題等	各グループワーク提出資料の提出期限は厳守すること。まとめを含む詳細の日時は、初回講義時に提示する。									
事前事後学修	グループワーク・ディスカッションに必要な事前・事後学習を十分におこなうこと。									
教材教科書参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論①在宅療養を支えるケア。メディカ出版、2022(978-4-8404-8471-8)第8版 2. ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論①在宅療養を支える技術。メディカ出版、2022(978-4-8404-8472-5)第3版 3. 他随時、プリント配布、参考文献を紹介する。 									
留意点	演習では、各自責任を果たしながら主体的に取り組むことが必要。グループ演習での援助においては、基礎看護学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・精神看護学で学んだ看護技術を在宅看護に応用していくため、復習が必須である。在宅療養を支える看護の修得は在宅看護実習の必須要件である。									

科目名	地域連携論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-36.S N		単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30046			15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名					授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの に関連し、カリキュラムポリシーの に関連している。										
到達目標											
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	<h1>今年度、開講せず</h1>										
第2回											
第3回											
第4回											
第5回											
第6回											
第7回											
第8回											
第9回											
第10回											
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)											
評価方法及び評価基準											
課題等											
事前事後学修											
教材教科書参考書											
留意点											

科目名	家族看護学		科目ナンバリング	N-NP NI 2-37. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30013		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬富士子、齊藤史恵、木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 家族を支援するために、家族とはどのようなことをいうのか、そのあり様を学ぶ。 また、家族を理解するための理論を理解し、家族に対する支援方法を学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3-1、3-2 に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族が果たしている役割と多様性を理解する。 2. 家族をひとつのシステムとして捉え、家族の関係性を理解する。 3. 家族の構造、発達、機能を理解する。 4. 家族の重要性を確認し、様々な疾患や障がい、家族の発達段階に応じた家族への看護援助のあり方を、事例を通じて理解する。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	家族看護学とは何か 家族とは、日本の家族の変遷		家族看護学誕生の背景、発展、動向。家族とは。					大瀬		
第2回	家族を理解する		発達する家族、家族周期、健康問題への家族の対処能力					大瀬		
第3回	家族の構造を明らかにする		ジェノグラムとエコマップ					大瀬		
第4回	家族と病気		DVD「ぼくたちの家族」病は家族に影響。					大瀬		
第5回	家族内の役割・機能・レジリエンス		家族のアセスメントの方法、家族看護方法					大瀬 グループワーク		
第6回	事例で学ぶ家族看護過程（1）		障がい、疾患と共に生きる患者と家族の看護（1）					齊藤		
第7回	事例で学ぶ家族看護過程（2）		障がい、疾患と共に生きる患者と家族の看護（2）					木田		
第8回	家族の看護とは		家族を支える看護					大瀬		
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせ総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。 									
課題等	グループワークの課題を提示します。									
事前事後学修	事前および事後学習として、教科書を読み、自分の興味や関心を明らかにしておくこと。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：家族看護学 改訂第2版 南江堂 2021 ISBN978-4-524-25708-9 ・講義の中で、随時、参考図書を紹介する。 									
留意点	読書や映画等から、多様な家族の理解に努める。									

科目名	公衆衛生看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-38. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N40000		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中 尾 八重子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 社会集団を対象とした公衆衛生看護の基本理念と目的を理解し、地域における看護職の役割と活動の根拠となる理念・法制度、健康行動やヘルスプロモーションの理論、事例等に基づき、健康課題別・健康危機管理を含む状況別の活動の特徴と内容、相談や教育などの予防的介入を基盤とした公衆衛生看護活動を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシー1-1、2-1、3-1、3-2、4-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師の歴史を概観し、公衆衛生看護活動の特徴を説明できる。 2. 公衆衛生看護学の理念の健康、プライマリー・ヘルスケア、ヘルス・プロモーション、ノーマライゼーション、住民主体の考え方を説明できる。 3. 公衆衛生の基盤である衛生行政の仕組みと公衆衛生看護活動の場・特性を記述できる。 4. 公衆衛生看護活動の対象である個人・家族・集団・コミュニティの捉え方と支援方法を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	公衆衛生看護とは (1)		公衆衛生と公衆衛生看護、公衆衛生看護の理念と目的							
第2回	公衆衛生看護とは (2)		保健師とは 地域看護と公衆衛生看護							
第3回	公衆衛生看護の歴史と健康課題		公衆衛生看護の始まり、保健師の種類、社会環境と健康課題							
第4回	公衆衛生看護活動の実際 (1)		行政 (保健所・市町村) 課題：市町村における公衆衛生看護活動						グループワーク	
第5回	公衆衛生看護活動の実際 (2)		企業 学校							
第6回	公衆衛生看護の基本となる概念 (1)		健康の考え方、プライマリー・ヘルスケア							
第7回	公衆衛生看護の基本となる概念 (2)		ヘルスプロモーション、公共性、エンパワメント、協働							
第8回	公衆衛生看護活動 (1)		保健師とその活動 保健指導							
第9回	公衆衛生看護活動 (2)		公衆衛生看護技術							
第10回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法 (1)		公衆衛生看護活動の対象者：個人・家族・集団・地域							
第11回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法 (2)		個別支援 (家庭訪問・健康相談)							
第12回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法 (3)		集団への支援 (健康教育)							
第13回	公衆衛生看護活動の対象と活動方法 (4)		地域へのアプローチ 全体に通じる活動							
第14回	健康危機管理 (1)		災害とは 救急医療と災害医療							
第15回	健康危機管理 (2)		災害サイクルと災害看護							
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、課題 (レポート)、定期試験等から総合的に評価。 2) 課題：20% 3) 定期試験：80% 									
課題等	課題(レポート)は、返却しない。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学のテキストや配付資料を見直す。 ・居住する地域 (自治体) の広報等を読み、行政における医療保健福祉に関心をもつ。 									
教材教科書参考書	教科書：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論第6版 医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生に関連したこれまでの学習内容と授業内容を関連付ける。 2) 授業で学んだことを、日常生活の観点から捉える。 3) 看護と公衆衛生看護の共通点・相違点を意識する。 									

科目名	公衆衛生看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-42. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40005		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	戸沼 由紀 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 地域で生活する個人や家族、集団、住民組織に対して行う公衆衛生看護活動の展開方法を学習する。また、公衆衛生の理念に基づき、家庭や地域社会など支援の場に応じた看護職の役割・機能を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2,3に関連し、カリキュラムポリシー2-1,3-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健指導の目的および相談の対応・教育的対応の技術を理解し、対人援助技術を述べることができる。 2. 家庭訪問援助の目的、方法を説明できる。 3. 個人・家族の健康課題に対する支援計画立案およびそれに基づいた支援をシミュレーション展開できる。 4. 地域組織活動の目的と支援技術を述べることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	保健指導		保健指導とは 目的 理念							
第2回	保健指導で活用できる理論		行動変容 変化ステージ理論、ナッジ理論							
第3回	保健指導における考え方		ヘルスリテラシー、自己効力感							
第4回	保健指導の主な技術		個別支援と集団支援 個別支援における技術							
第5回	家庭訪問と家族支援		保健師による家庭訪問の目的、特徴、方法							
第6回	家庭訪問の展開		準備・計画立案・実施・評価							
第7回	家庭訪問の実践(1)		演習：支援目的・支援計画立案						グループワーク	
第8回	家庭訪問の実践(2)		演習：本人への支援						グループワーク	
第9回	家庭訪問の実践(3)		演習：家族への支援						グループワーク	
第10回	家庭訪問の実践(4)		課題：受容と傾聴							
第11回	健康相談		健康相談の目的、対象、特徴							
第12回	健康相談とその展開		問題の明確化・カウンセリング技術							
第13回	健康診査		各種健康診査 特定健診・特定保健指導							
第14回	地域組織活動		組織とは 地域組織の種類							
第15回	地域組織活動・グループ支援		地域組織活動の支援 支援の目的							
授業方法(ディプロマ・ポリシー・ラーニング等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、課題、演習への取り組みと成果、定期試験等から総合的に評価。 2) 課題：10% 3) 演習：20% 4) 定期試験：70% 									
課題等	課題(レポート)は、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むこと。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第5版 医学書院 2023 ISBN978-4-260-05002-9 ・随時、資料の配布や参考図書を紹介する。 									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 演習には主体的に取り組み、メンバーと協働する。 2) 公衆衛生および公衆衛生看護学関連の他科目で学んだことと授業内容を関連付けながら理解を深める。 									

科目名	健康教育論（理論・実践）		科目ナンバリング	N-NP NI 2-40. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40006		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	戸沼 由紀 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	【授業の主旨】 健康教育の理念や歴史、行動変容の理論に基づいた健康教育に必要な技術について学び、地域で暮らす人々の集団を対象とした健康教育の実践を体験する。その実践を通し、集団に対する支援の基本的な技術とともに、「健康教育」の展開方法（企画・指導案・媒体作成等）を学習する。									
	【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシー1-1, 2-1, 3-1, 5-1に関連している。									
到達 目標	1. 地域集団を対象に展開する健康教育の考え方を説明できる。 2. 健康な人々を対象とした健康教育の展開方法と技術を説明できる。 3. 健康教育の目標を達成できるような教育媒体を作成できる。集団を対象とした健康教育の方法を展開できる。 4. 小集団を対象とした健康教育を実施できる									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	健康教育の理念・目的・方法		公衆衛生看護活動における健康教育 健康教育の理念、変遷							
第2回	健康教育と行動変容		行動変容とは							
第3回	健康教育の技術		学習と教育、教育技術							
第4回	健康教育の展開		健康教育の準備、実施、評価							
第5回	健康教育の展開過程（1-1）		企画書とは							
第6回	健康教育の展開過程（1-2）		演習：企画書の作成						グループワーク	
第7回	健康教育の展開過程（1-3）		演習：企画書の修正							
第8回	健康教育の展開過程（2-1）		指導案とは							
第9回	健康教育の展開過程（2-2）		演習：指導案の作成						グループワーク	
第10回	健康教育の展開過程（2-3）		演習：指導案の修正							
第11回	健康教育の展開過程（4）		媒体とは 演習：媒体作成							
第12回	健康教育の展開過程（5）		演習：シナリオ作成							
第13回	健康教育の実施（1）		発表（自身の発表）						プレゼンテーション	
第14回	健康教育の実施（2）		発表（他グループの発表）							
第15回	健康教育の評価		実践の振り返り（他者評価・自己評価）							
授業方法 (FD, TP, P, L等)	グループワーク	発表、ポスター作成								
評価 方法 及び 評価 基準	1) 2/3以上の出席者につき、演習とその成果、課題、定期試験等から総合的に評価。 2) 演習：40% 3) 定期試験：60%									
課題 等	課題（レポート）は、返却しない。									
事前 事後 学修	健康教育の実施（発表）ができるよう主体的に学習する。									
教材 教科書 参考書	・教科書：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版 医学書院 2023 ISBN978-4-260-05002-9 ・適時、資料の配布や参考図書を紹介する。									
留意 点	1) グループでの演習に主体的に参加できるよう授業内容を理解できるまで自己学習する。 2) メンバーシップを発揮し演習に取り組む。									

科目名	コミュニティ活動展開論 (地域診断)		科目ナンバリング	N-NP NI 2-41.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N40007		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	戸沼 由紀 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>地域で暮らす人々の健康と生活を支援するための看護の展開方法と技術を習得する。個人・家族・集団に対する支援活動を展開するための基本的な技術である「地域診断」について、理念・理論、及び方法と技術を学習する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5、6に関連し、カリキュラムポリシーの3-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断の概念を理解できる。 2. 地域を対象とした多様な情報を収集することができる。 3. 地域集団を対象に展開するコミュニティ・アセスメントの方法を理解できる。 4. 地域診断を通して地域の健康課題を明らかにすることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	地域診断の概念			(DVD) 公衆衛生看護活動における地域診断 (37分) ・地域診断の定義、意義と目的、展開の基本						
第2回	地域アセスメントに活用できるモデル			コミュニティ・アズ・パートナーモデル、地域アセスメント項目						
第3回	地域アセスメントの過程			情報の収集方法とアセスメント、健康課題の特定、優先順位の判断						
第4回	地域診断の方法			エスノグラフィー、地区視診						
第5回	地域診断の実際 (1)			地域診断の計画立案/演習						
第6回	地域診断の実際 (2)			計画に基づいた展開/演習						
第7回	地域診断の実際 (3)			計画に基づいた展開、情報の整理/演習						
第8回	地域診断の実際 (4)			情報の分析、発表						
授業方法(ディプロマ・ポリシー・アセスメント等)										
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、演習、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 演習への取り組みと発表 (30%)、課題レポート (15%) 4) 定期試験：50% 									
課題等	Teamsにより適宜指示します。 感想シートなどは、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：公衆衛生看護学概論：医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4 ・随時、資料の配布や参考図書を紹介する。 ・国民衛生（福祉）の動向 2022/2023 									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業で紹介された文献などは、自己学習が重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かすことが大切である。 3) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに関心を持つことが不可欠である。 4) コロナ関連のニュースは、必ず視聴し、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを把握する。 									

科目名	成人看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-08. H N	単位数 時間	1単位 15時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30014						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	野戸結花、富澤登志子 北島麻衣子、新田純子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人各期の特性(身体的・精神的、社会的)を全人的・総合的に学ぶ。また、成人期の健康特性及び加齢の進行に基づく生活習慣病の予防、疾病からの回復、重症化予防など健康問題を理解する。その上で、看護理論をふまえた成人への援助・支援の方法を理解し、成人看護の基本について学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 5およびカリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の生活と健康について説明できる。 2. 成人への看護アプローチの基本を説明できる。 3. 成人の健康レベルに対応した看護を説明できる。 4. 成人の健康生活を促すための援助方法を説明できる。 5. 変化する医療・生活環境に対応した看護を説明できる。 									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	成人看護学の概念と成人の特性		1. 成人看護学の位置づけ 2. 対象者を生活者としてとらえる視点 3. ライフサイクル							
第2回	成人保健と健康障害		1. 成人保健の動向 2. 健康の概念と成人期における健康障害の特徴 3. 日本におけるヘルスプロモーション活動							
第3回	成人の健康レベルと看護援助：急性期		1. 健康レベルと看護活動 2. 急性期にある患仁患者の理解と看護							
第4回	成人の看護レベルと看護援助：リハビリテーション期		リハビリテーション期にある成人患者の理解と看護							
第5回	成人の健康レベルと看護援助：慢性期		慢性病患者の理解、支援の基本(知識と技術、自己効力、エンパワメント)							
第6回	成人の健康レベルと看護援助：終末期		終末期にある人への看護							
第7回	成人看護における倫理的課題		成人看護における倫理的課題と看護							
第8回	新たな治療法、先進医療と看護		新たな治療法・医療処置の開発・普及、新たな治療法・医療処置を受ける患者・家族への看護							
授業方法(レクチャー・グループワーク等)	クイズ、小テスト	授業中のノート取り								
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とする。 筆記試験(80%) 課題レポート(20%)									
課題等	採点後の課題レポートは返却しない。									
事前事後学修	各授業内容に関連する教科書の該当項目を読んでくること。 準備学習時間の目安：1日あたり30分程度									
教材教科書参考書	教科書：大西和子、藤田佐和著 成人看護学概論第3版 ニューヴェルヒロカワ 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	各種メディアで報道される健康関連問題、最新の医療について感心を持ち、看護の役割について考えて下さい。									

科目名	成人看護学Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-09. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期			
			科目コード	N30015		30時間							
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田まり子 三上佳澄 因直哉 村岡祐介 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数				
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>慢性の病を持つ人は、病気とうまく付き合っていくことが求められる。生活の主体者である人のセルフケアマネジメント支援を基盤として、成人期にある慢性的な健康問題を抱える人と家族が、病状を管理し日常生活を構築するための援助方法を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 3-1, 4-1, 5-1に関連している。</p>												
到達目標	<p>1. セルフケアマネジメントが必要な状況にある慢性疾患の病態・症状・治療法を理解し、看護に結び付けて説明できる。</p> <p>2. 慢性病と共に生きる成人の身体・心・社会関係に与える影響を理解し、療育法を生活に取り入れ実践していくための看護援助を理解できる。</p> <p>3. 慢性病のある人とその家族を包括的な視点から理解し、エビデンスに基づいた看護を展開できる。</p> <p>4. 慢性疾患患者の援助に必要な看護技術について、患者―看護師役割を体験する演習を通して修得する。</p> <p>5. アクティブラーニングをベースにグループワークを通して主体的・多角的な視点を養う。</p>												
授 業 計 画													
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考				
第1回	慢性病のある人とその家族の理解			慢性病と慢性疾患 慢性病のある人とその家族の特徴					高田 「生活習慣を変えよう！」チャレンジレポート①				
第2回	慢性病のある人とその家族の援助			慢性病のある人とその家族のセルフマネジメント支援に必要な概念									
第3回	慢性腎臓病のある人、維持血液透析が必要な人のセルフマネジメントを支える看護			慢性腎臓病のある人・維持血液透析が必要な人と家族の理解及びセルフマネジメントを支える看護					三上佳澄				
第4回													
第5回	慢性心不全のある人のセルフマネジメントを支える看護			慢性心不全のある人と家族の理解及びセルフマネジメントを支える看護					因直哉				
第6回													
第7回	2型糖尿病のある人のセルフマネジメントを支える看護			2型糖尿病のある人と家族の理解、自己血糖測定・インスリン自己注射・食事療法が必要な人のセルフマネジメントを支える看護					高田 自己血糖演習時 (村岡)				
第8回													
第9回							2型糖尿病のある人の看護過程を展開する(グループワーク)					高田 自己注射演習時 (村岡)	
第10回													
第11回	慢性呼吸不全のある人のセルフマネジメントを支える看護			慢性呼吸不全のある人と家族の理解及びセルフケアマネジメントを支える看護					高田				
第12回													
第13回							慢性呼吸不全のある人の看護過程を展開する(グループワーク)					高田	
第14回													
第15回	まとめ			「自己の生活習慣を変えよう！」のチャレンジを通してセルフケアマネジメントを支える看護を考察する。					高田				
授業方法(アクティブラーニング等)	グループワーク	ロールプレイング	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	リフレクションシート	まとめアクティビティ							
評価方法及び評価基準	1. 2/3以上の出席者に対して、客観的テスト(三上・因各15%、高田50%)、課題レポート(10%)、リフレクションペーパー等(10%)により評価。												
課題等	1. 「自己の生活習慣を変えよう！」の計画 2. 随時、課題を提示。												
事前事後学修	1. 第15回自己の体験を通し、テーマ「生活者としての慢性病のある人が自分らしく生きることに添う看護とは」A4(40×40)2枚程度												
教材教科書参考書	1. 教科書 鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第4版 南江堂(ISBM978-4-524-23436-3) 2. 他成人看護学Ⅱ～Ⅳで使用している教科書等も参照 3. 適宜、講義資料配布												
留意点	1. 成人看護学は範囲が広いので受動的な学習姿勢では目標到達はできません。主体的・能動的な姿勢を求めます。												

科目名	成人看護学Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-10.H N	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30016						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子, 漆坂真弓, 三上佳澄, 木田優子, 村上優人 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 慢性の病いをもつ人とその家族は、その人の病いの始まりの時期から終末期まで、生涯をとおして病いとうまくつきあっていくことが求められる。生活の主体者である人へのセルフマネジメント支援を基盤として、成人期にある慢性的な健康問題を抱える人と家族が、病気を管理し日常生活を構築するための援助方法を学ぶ。 生活機能障害をもち生活の再構築に直面した人とその家族の健康を、生命・生活・人生の観点からとらえ、人間の尊厳と可能性に焦点を合わせて、患者の自律を目指した看護を理解できる。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 3-1, 4-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> セルフマネジメントが必要な状況にある病いだけでなく、セルフマネジメントが及ばない状況もある病いをもつ人のさまざまな慢性疾患について病態・症状・治療法を理解し、看護に結びつけて説明できる。 慢性の病いととも生きる成人の身体・心・社会関係に与える影響を理解し、療養法を生活に取り入れ実践していくための看護援助を理解できる。 理論・モデルを活用して慢性の病いをもつ人とその家族を包括的な視点から理解し、エビデンスに基づいた看護を展開できる。 リハビリテーションの概念、回復期リハビリテーション看護の専門性を理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修							備考	
第1回 5/7	消化器系の障害のある人の看護①	肝炎、肝硬変のある人の理解と看護							三上	
第2回 5/14	消化器系の障害のある人の看護②	肝がん、膵がんのある人の理解と看護							三上	
第3回 5/22	免疫系の障害がある人の看護①	自己免疫疾患（慢性リウマチ・全身性エリテマトーデス：SLE）のある人の理解と看護							漆坂	
第4回 5/28	化学療法を受ける人への看護①	化学療法の基礎知識、化学療法を受ける人の特徴							村上(優)	
第5回 6/4	化学療法を受ける人への看護②	化学療法を受ける人への援助							村上(優)	
第6回 6/11	乳がんの治療を受ける患者の看護①	乳がんのある人の理解と看護							村上(優)	
第7回 6/12	乳がんの治療を受ける患者の看護②	乳がんのある人の理解と看護							村上(優)	
第8回 6/18	放射線療法を受ける人への看護	放射線療法の基礎知識、放射線療法を受ける人への援助							村上(優)	
第9回 6/19	免疫系の障害がある人の看護②	クローン病、潰瘍性大腸炎のある人の理解と看護							三上	
第10回 7/2	脳・神経系の障害のある人の看護①	パーキンソン病のある人の理解と看護							木田	
第11回 7/3	免疫系の障害がある人の看護③	白血病、悪性リンパ腫のある人の理解と看護							漆坂	
第12回 7/9	脳・神経系の障害のある人の看護②	筋萎縮性側索硬化症（ALS）のある人とその家族の理解と看護							木田	
第13回 7/10	筋ジストロフィー症をもつ人の看護	筋ジストロフィー症をもつ人の理解と看護							木田	
第14回 7/16	脳・神経系の障害のある人の看護③	脳梗塞のある人の理解と看護							幸山	
第15回 7/23	脳・神経系の障害のある人の看護④	脳梗塞のある人の理解と看護							幸山	
授業方法 (グループワーク など)										
評価 方法及び 評価 基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（75%）、小テスト・リフレクションペーパー等(25%)により評価します。									
課題等	随時、課題を提示します。									
事前事後 学修	週当たり3時間程度、授業外に自ら学修を進めましょう。									
教材 教科書 参考書	<p>〈教科書〉鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第4版 南江堂 (ISBN978-4-524-23436-3)</p> <p>酒井郁子、金城利雄：リハビリテーション看護 障害のある人の可能性とともに歩む 改訂第3版 南江堂 (ISBN978-4-524-24629-8)</p> <p>〈参考書〉安酸史子、鈴木純恵、吉田澄恵：成人看護学(3) セルフマネジメント 第4版 ナーシング・グラフィカ</p>									
留意点	成人看護学は範囲が広いので受動的な学習姿勢では目標到達はできません。主体的・能動的な姿勢を求めます。									

科目名	成人看護学Ⅲ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-11.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30017		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介、藤田 あけみ、村上 優人 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 周手術期およびクリティカルな時期にある成人期の人々と家族のニーズを理解し、患者およびその家族のQOLを高めるための看護援助と看護師の役割について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2、3-1、2、4-2、5-1、2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける患者の身体的・心理的特徴をふまえ、術前・術中・術後に必要な看護を理解できる。 2. 手術を受ける患者の情報を総合的に判断し、術後合併症の早期発見・予防・回復に向けた看護援助を説明できる。 3. 急性病態や治療の特徴をふまえ、根拠に基づいた看護援助を理解できる。 4. 手術および急性疾患の治療後における患者の機能変化を理解し、生活の再構築に向けた看護援助を考えることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	急性期・周術期看護とは		急性期・周術期における患者の特徴と看護師の役割						藤田	
第2回	手術前の看護①		術前患者の心理 術前オリエンテーション 術前準備						藤田	
第3回	手術前の看護②		術前日～当日の援助 術前のアセスメント						藤田	
第4回	手術中の看護		手術室看護師の役割と機能 術中合併症予防の援助						村岡	
第5回	手術後の看護		術後の観察とアセスメント 術後合併症予防の援助						村岡	
第6回	急性期治療を受ける患者の看護		集中治療を受ける患者の特徴、各種治療に伴う援助						村岡	
第7回	胃切除を受ける患者の看護①		術前～術後の観察とアセスメント						村岡	
第8回	胃切除を受ける患者の看護②		術後合併症予防の看護 退院指導						村岡	
第9回	肺葉切除を受ける患者の看護①		術前～術後の観察とアセスメント						村岡	
第10回	肺葉切除を受ける患者の看護②		術後合併症予防の看護 退院指導						村岡	
第11回	心筋梗塞患者の看護①		術前～術後の観察とアセスメント						村岡	
第12回	心筋梗塞患者の看護②		術後合併症予防の看護 退院指導 心臓リハビリテーション						村岡	
第13回	脳腫瘍患者の看護①		術前～術後の観察とアセスメント						村岡	
第14回	脳腫瘍患者の看護②		術後合併症予防の看護 退院指導 後遺障害と心理・社会的問題						村岡	
第15回	まとめ		授業の総括						村岡、村上優	
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	資料記入	リフレクションシート								
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験(70%) 課題(30%)									
課題等	適宜課題を提示する。									
事前事後学修	事前に教科書の該当部分を読んでから授業に参加すること。 事前・事後学修時間の目安：1日あたり30分程度。									
教材教科書参考書	〈教科書〉 ・林 直子、佐藤まゆみ編集：成人看護学 急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護 改訂第4版 南江堂 ISBN 978-4-524-24163-7 〈参考書〉 ・野島真奈美、林 直子、佐藤まゆみ、鈴木久美編集：成人看護技術 改訂第2版 南江堂 ISBN 978-4-524-25418-7									
留意点	関連の基礎科目「人体の構造Ⅰ・Ⅱ」「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」「疾病論Ⅰ～Ⅲ」ほか、と併せて理解を深めること。									

科目名	成人看護学Ⅳ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-11. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30044		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介、村上 優人 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 手術による侵襲および患者の心理状態をふまえ、術後合併症予防および術後の身体機能の変化に応じたセルフケア能力を獲得するための援助について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2、3-1、2、4-2、5-1、2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の病態・術式・身体状況から、術後合併症の早期発見・予防・回復に向けた看護援助を考えることができる。 2. 周術期患者の情報を総合的に判断し、エビデンスに基づいた看護を説明できる。 3. 事例患者の看護過程展開を通じ、患者の回復支援に必要な援助を計画できる。 4. 患者と看護師役として経験する実技演習を通して、周術期における看護師の役割と責任について考えることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	術後合併症予防の援助 1		手術を受けた患者の情報収集とアセスメント 主要な術後合併症の予防と援助						村岡	
第2回	ストーマ造設術を受ける患者の看護		ストーマ造設術を受ける患者の理解						村岡	
第3回			ストーマ造設術を受ける患者の理解						村岡	
第4回			看護過程展開（術前） 看護計画立案						グループワーク 村岡・村上	
第5回			看護過程展開（術後） 術後1日目/ストーマケアの援助計画作成						グループワーク 村岡・村上	
第6回			ストーマケアの援助実施 1 援助計画の実施						実技演習 村岡・村上	
第7回			ストーマケアの援助実施 2 実施記録の記載						実技演習 村岡・村上	
第8回			看護過程展開（術後）援助の振り返り・学びの共有						グループワーク 村岡・村上	
第9回			人工股関節置換術を受ける患者の看護		人工股関節置換術を受ける患者の理解					
第10回	看護過程展開（術前） 看護計画立案						グループワーク 村岡・村上			
第11回	看護過程展開（術後） 術後1日目/離床時の援助計画作成						グループワーク 村岡・村上			
第12回	離床の援助実施 1 援助計画の実施・実施記録の記載						実技演習 村岡・村上			
第13回	離床の援助実施 2 援助計画の実施・実施記録の記載						実技演習 村岡・村上			
第14回	看護過程展開（術後）実施内容の報告・援助の振り返り						グループワーク 村岡・村上			
第15回	まとめ		授業の総括						村岡	
授業方法 (オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ロールプレイング	リフレクションシート							
	一部オンデマンドを予定している。詳細は授業開始時に説明する。									
評価方法 及び 評価 基準	<p>2/3以上の出席者を評価対象とする。 筆記試験 (40%) 課題 (40%) 実技演習・グループワークの参加度 (20%)</p>									
課題等	第2回～第8回（課題1）、第9回～第14回（課題2）で提示する記録物（患者情報・統合アセスメント・看護計画・実施記録）									
事前事後学修	効果的なグループワークにするため個人の事前学習を要する。 事前・事後学修時間の目安：1日あたり1時間程度。									
教材 教科書 参考書	<p>〈教科書〉 ・林 直子、佐藤まゆみ編集：成人看護学 急性期看護 I 概論・周術期看護 改訂第4版 南江堂 ISBN 978-4-524-24163-7 〈参考書〉 ・野島真奈美、林 直子、佐藤まゆみ、鈴木久美編集：成人看護学 成人看護技術 改訂第3版 南江堂 ISBN 978-4-524-22954-3</p>									
留意点	エビデンスに基づいた援助に結び付けるため既習科目と関連させて理解を深めること。									

科目名	リハビリテーション論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-13. S N		単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30009			15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	三浦 雅史 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 機能障害をもち、生活の再構築に直面した人の健康を生命・生活・人生の観点から捉え、人間の尊厳と可能性に焦点を合わせて、患者の自立を目指した看護への理解を深め、活用へと結びつける。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1に関連する。</p>										
到達目標	<p>1. リハビリテーションの概念、回復期リハビリテーションにおける看護の専門性についてICFの視点から深く考え、リハビリテーションマインドを養う。 2. 機能障害がある人への看護の実際を理解し、実施できる。 3. 回復期リハビリテーションにおける多職種協働の実際を知り、必要性を理解できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	リハビリテーション看護の専門性を考える			<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション看護の定義や考え方について共有を通して、理解を深めることができる。 リハビリテーション看護の専門性を理解するための概念(ICF)を確認できる。 							
第2回	代表的なリハビリテーション看護について (1)			<ul style="list-style-type: none"> 脳血管障害、心疾患、神経難病のリハビリテーション看護について理解する。 							
第3回	代表的なリハビリテーション看護について (2)			<ul style="list-style-type: none"> 関節リウマチ、切断、関節術後のリハビリテーション看護について理解する。 							
第4回	リハビリテーション看護の観点からみた介助技術について			<ul style="list-style-type: none"> ベット上動作、立位訓練、歩行介助(杖の使用)について理解する。 						実技を含む ユニフォーム・ ナースシューズ着 用	
第5回	リハビリテーション看護の実際			<ul style="list-style-type: none"> 脳卒中に伴う生活機能障害のある人のリハビリテーション看護の実際 多職種連携の実際 運動機能障害、嚥下障害、転倒リスク状態のある人への看護技術能力が向上する。 						講義 (ゲストスピーカー) ユニフォーム・ ナースシューズ着 用	
第6回											
第7回											
第8回	まとめ			<ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション看護を実践するためのブレイントレーニング 							
授業方法(演習、グループワーク、フィールドワーク、ロールプレイング、クイズ、小テスト)	PBL (問題解決型学習)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ロールプレイング	クイズ、小テスト						
評価方法及び評価基準	講義への参加度 (小テスト含む) 40%、期末テスト60%										
課題等	課題がある場合は、講義内で内容、期日をお知らせします。										
事前事後学修	事前学習として合計12時間以上を目安とする。										
教材教科書参考書	【教科書】山本恵子他：リハビリテーション看護、医学書院、2023 ISBN：978-4-260-04999-3										
留意点	与えられた知識技術だけでなく、それらを元に自ら考える習慣をつけて下さい。										

科目名	緩和ケア論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-14. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30039		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	藤田あけみ、高橋由香子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 緩和ケアの概念、緩和ケアに活用される概念について学ぶ。また、緩和ケアにおける意思決定の支援、日常生活の支援、家族への支援について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、2-1、3-1、4-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの概念とその提供の場を説明できる。 2. 緩和ケアにおける倫理的問題を理解できる。 3. 緩和ケアに活用される概念を理解できる。 4. 緩和ケアにおける意思決定支援を理解できる。 5. 家族を支援するための視点と看護を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	緩和ケアとは		緩和ケアの歴史と定義、緩和ケアを取りまく今日の状況						藤田	
第2回	緩和ケアの基盤となる考え方		尊厳を支えるケア、意思決定を支えるケア、グリーフケア、多職種チームアプローチ						藤田	
第3回	緩和ケアの実際①		痛み・呼吸困難・悪心嘔吐・腹部膨満感・便秘・倦怠感・浮腫のマネジメント						藤田	
第4回	緩和ケアの実際②		睡眠障害・不安・うつ・せん妄のマネジメント、社会的苦痛、スピリチュアルペインへのケア						藤田	
第5回	さまざまな対象への緩和ケア①		認知症・心不全・慢性呼吸不全を有する人への緩和ケア						藤田	
第6回	さまざまな対象への緩和ケア②		神経難病を有するの人への緩和ケア、救急・集中治療領域における緩和ケア、家族へのケア						藤田	
第7回	事例で学ぶ緩和ケアの実際①		疼痛コントロール、閾値を高めるケア、チームアプローチについて考える						高橋	
第8回	事例で学ぶ緩和ケアの実際②		臨死期の患者・家族へのケア、エンゼルケア(遺体処置、遺体管理、グリーフケア、エンゼルメイクを含む)について考える						高橋	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(少人数・少人数・少人数等)	ペアワーク	グループワーク	授業中のノート取り	リフレクションシート						
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とする。 筆記試験(80%) 課題レポート(20%)									
課題等	採点後の課題レポートは返却しない。									
事前事後学修	各授業内容に関連する教科書の該当項目を読んでくること。 準備学習時間の目安：1日あたり30分程度									
教材教科書参考書	教科書：梅田恵、射場典子監修：緩和ケア改訂第3版 (ISBN978-4-524-21001-2)、南江堂、2025 随時、参考文献を紹介する。授業はレジメを配布する。									
留意	各種メディアで報道されるがん医療 緩和ケア 人の死について感心を持ち、看護の役割について考えて下さい									

点

石住ノリノ「報道されるがら盗撮、転写ノリ、ハック」について感心を持つ、自説の区別について示すこと。

科目名	老年看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-15. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30018		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 高齢者を成熟の段階にありそれぞれ生きてきた人生や価値観が異なる人ととらえ、その多様性について身体的・心理的・社会的側面から理解する。また、高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や諸制度を理解し社会的な課題にも着目し学びを深め、QOLや生きがい、人権と倫理的課題についても学ぶ。これらの学習から高齢者の健康と生活を支援するための看護のあり方を考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの1-1、2-1、3-1、3-2、4-1に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の発達課題について理解することができる。 2. 高齢者を取り巻く環境が理解できる。 3. 高齢者に関連した保健・医療・福祉制度の現状と課題について理解できる。 4. 高齢者を尊重したかわり、倫理的課題について理解できる。 5. その人らしい生活を継続するための方法と重要性が理解できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	「老い」をどうとらえるか		人間にとって「老い」とはなにか。生理的側面、病理学的側面、心理的側面から学ぶ。					レポート課題あり		
第2回	老年期の発達と課題、エンドオブライフケア		加齢は成長・発達の一部である。重要な発達課題に関する理論について学ぶ。エンドオブライフケアについても学ぶ。							
第3回	超高齢社会と社会保障		日本は世界トップの超高齢社会である。そのことが社会の構造にどう影響を与えどどのような問題があるのかを学ぶ。また、現在の社会保障について背景から学んでいく。							
第4回	老年看護のなりたち		老年看護の役割、よく用いられる理論について学ぶ。							
第5回	心身の加齢変化①		心身における加齢の影響について学ぶ。 【グループワーク】					グループワーク		
第6回	心身の加齢変化②		心身における加齢の影響について学ぶ。 【グループワーク成果の発表】							
第7回	高齢者の権利擁護①		高齢者の権利擁護について問題解決型アプローチで学ぶ。 【グループワーク】					グループワーク (PBL)		
第8回	高齢者の権利擁護②		高齢者の権利擁護について問題解決型アプローチで学ぶ。 【グループワーク成果の発表】							
授業方法(予 習・演習・PBL 等)	グループワーク	PBL (問題解決型学習)	発表、ポスター作成							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験 (70%) : 持ち込み不可とする。 レポート課題 (10%) : 未提出の場合は配点なし。提出遅れの場合は5点減点とする (公欠除く)。 予習課題 (10%) : 全提出で10点、それ以外は1提出1点とする。なお、実施内容が乏しい場合は配点しない。 グループワーク評価 (10%) : 参加状況、貢献度を評価の対象とする。</p>									
課題等	レポート課題、グループ課題がある。									
事前事後 学修	予習課題を設ける。各講義前日までにTeams上で提出 (課題機能使用) する。該当講義日以降は受理しない。									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】系統看護学講座-専門分野 老年看護学 第10版 医学書院 ISBN 978-4-260-05689-2 系統看護学講座-専門分野 老年看護 病態・疾患論 第6版 医学書院 ISBN (改訂予定にて未定) 【その他】資料を講義時に配布する。解剖ノートも持参するように。</p>									
留意点	日本の社会構造の理解が不可欠です。常日頃からニュース等に関心を持つようになしてください。									

科目名	老年看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-16. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30019		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>老年看護学概論での学びを踏まえ、加齢や疾患が高齢者の健康生活に及ぼす影響と援助方法を学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 3-1, 3-2, 4-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 加齢によって生じる高齢者の心身への影響、日常生活への影響を理解できる。</p> <p>2. 高齢者特有の疾患と症状を理解し、アセスメントのポイントが理解できる。</p> <p>3. 高齢者の健康を維持・増進するための看護の役割について考えることができる。</p> <p>4. 高齢者とその家族を支えるための地域の役割と看護のつながりについて考えることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	老年症候群と廃用症候群		老年症候群、廃用症候群、CGAについて学ぶ							
第2回	ADLとその評価		BADL、IADLについて学び、それらを実践するツールを実際に体験して学ぶ。						グループワークあり	
第3回	高齢者のフィジカルアセスメント①		高齢者のフィジカルアセスメントについて学ぶ。 【グループワーク】						グループワーク	
第4回	高齢者のフィジカルアセスメント②		高齢者のフィジカルアセスメントについて学ぶ。 【グループワーク成果の発表】						グループワーク	
第5回	生活のアセスメント		加齢変化は生活への影響が大きい。また、高齢者は環境から影響を受けやすい。いかにこれらが重要であるかを学ぶ。							
第6回	転倒と骨折		高齢者が要介護状態になる原因の一つでもある転倒・骨折とその看護について学ぶ。(骨粗鬆症含む)							
第7回	脱水・浮腫		高齢者における脱水・浮腫それぞれのメカニズム、症状、看護について学ぶ。							
第8回	疼痛・搔痒感		高齢者における疼痛・搔痒感それぞれのメカニズム、症状、看護について学ぶ。							
第9回	循環器系、呼吸器系の疾患		高齢者における循環器系、呼吸器系の疾患と看護について学ぶ。							
第10回	消化器系、腎泌尿器系の疾患		高齢者における消化器系、腎泌尿器系の疾患と看護について学ぶ。							
第11回	自己免疫疾患、血液系の疾患		高齢者における自己免疫疾患、血液系の疾患と看護について学ぶ。							
第12回	精神・神経疾患		高齢者における精神・神経疾患と看護について学ぶ。							
第13回	皮膚疾患、感覚器疾患、感染症		高齢者における皮膚疾患、感覚器疾患、感染症と看護について学ぶ							
第14回	高齢者のリハビリテーション		高齢者における各種リハビリテーションについて学ぶ。体験学習あり。						グループワークあり	
第15回	地域における高齢者		介護予防、地域包括ケアについて学ぶ						オンデマンド授業のみ。 レポート課題あり	
授業方法(レポー ト、グループワ ーク等)	グループワーク	ロールプレイング								
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験(60%)：持ち込み不可とする。</p> <p>レポート課題(10%)：未提出の場合は配点なし。提出遅れの場合は5点減点とする(公欠除く)。</p> <p>予習課題(20%)：全提出で20点、それ以外は1提出1点とする。なお、実施内容が乏しい場合は配点しない。</p> <p>グループワーク評価(10%)：参加状況、貢献度を評価の対象とする。</p>									
課題等	レポート課題、グループ課題がある。									
事前事後 学修	予習課題を設ける。各講義前日までにTeams上で提出(課題機能使用)する。該当講義日以降は受理しない。									
教材 教科書 参考書	<p>【教科書】系統看護学講座-専門分野 老年看護学 第10版 医学書院 ISBN 978-4-260-05689-2</p> <p>系統看護学講座-専門分野 老年看護 病態・疾患論 第6版 医学書院 ISBN (改訂予定にて未定)</p> <p>根拠と事故防止からみた老年看護技術 第4版、医学書院 (ISBN 978-4-260-05692-2)</p> <p>【その他】資料を講義時に配布する。解剖ノートも持参するように。</p>									
留意点	最終回はオンデマンド形式となります。初回授業で15回の日程表を配布します。									

科目名	老年看護援助論 I		科目ナンバリング	N-NP 2-30.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30061		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>高齢者特有の疾患と看護について学習する。 高齢者の健康と自立を支える為に必要な基本的援助技術と看護について学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4に関連し、カリキュラムポリシー2-1、3-2、4-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 老年看護学概論と老年看護方法論で学んだ高齢者の特徴を基盤とし、高齢者特有の疾患と看護について理解できる。</p> <p>2. 高齢者の生活機能を理解し、基本的な援助技術を修得できる。</p> <p>3. 高齢者の尊厳に配慮したコミュニケーション方法を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	循環器系、呼吸器系の疾患		【講義】高齢者における循環器系、呼吸器系の疾患と看護について学ぶ。							
第2回	消化器系、腎泌尿器系の疾患		【講義】高齢者における消化器系、腎泌尿器系の疾患と看護について学ぶ。							
第3回	高齢者疑似体験、移動演習		【演習】(ユニフォーム着用。着替える時間を設けます) ・高齢者疑似体験・入浴介助 ・転倒予防対策					演習提出物あり		
第4回										
第5回	感染症と予防		【講義】高齢者に多い感染症と予防策について学ぶ					演習提出物あり		
第6回			【教室内演習】口腔ケア (ユニフォーム不必要)							
第7回	高齢者の食生活		【講義】高齢者の食生活のアセスメントと支援方法について学ぶ。					演習提出物あり		
第8回			【教室内演習】食事介助 (ユニフォーム不必要)							
授業方法(わ たがひ、ペア ワーク等)	ロールプレイング	グループワーク								
評価方法及び評価基準	<p>試験 (50%) : 持ち込み不可とする。</p> <p>レポート課題 (10%) : 未提出の場合は配点なし。提出遅れの場合は5点減点とする (公欠除く)。</p> <p>予習課題 (10%) : 全提出で10点、それ以外は1提出1点とする。なお、実施内容が乏しい場合は配点しない。</p> <p>演習提出物 (30%) : 未提出の場合は配点なし。提出遅れの場合は5点減点とする (公欠除く)。内容が乏しい場合は減点する。</p>									
課題等	レポート課題、グループ課題がある。									
事前事後学修	予習課題を設ける。各講義前日までにTeams上で提出 (課題機能使用) する。該当講義日以降は受理しない。									
教材教科書参考書	<p>【教科書】系統看護学講座-専門分野 老年看護学 第9版 医学書院 ISBN 978-4-260-03186-8</p> <p>系統看護学講座-専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院 ISBN 978-4-260-03172-1</p> <p>根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版、医学書院 (ISBN 9784260024983)</p> <p>【その他】資料を講義時に配布する。解剖ノートも持参するように。</p>									
留意点	提出物の配点が大きいです。必ず提出するようにしてください。初回授業で日程表を配布します。									

科目名	老年看護援助論Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP 2-31.H N		単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30062			30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	小野 綾 (実務経験のある教員)				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>高齢者特有の疾患と看護について学習する。 高齢者の生活と健康を支えるための援助を計画、実施、評価する一連の看護過程展開を演習する。 高齢者の健康と自立を支える為に必要な基本的援助技術と看護について学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4に関連し、カリキュラムポリシー2-1、3-2、4-1に関連している。</p>										
到達 目標	<p>1. 老年看護における生活機能アセスメントの方法を理解し、事例展開にて実践する事ができる。 2. 目標志向型アプローチで看護過程を展開する事ができる。 3. 老年看護学概論と老年看護方法論で学んだ高齢者の特徴を基盤とし、高齢者特有の疾患と看護について理解できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	自己免疫疾患、血液系の疾患			【講義】高齢者における自己免疫疾患、血液系の疾患と看護について学ぶ。					オンデマンド授業のみ。 レポート課題あり		
第2回	精神・神経疾患			【講義】高齢者における精神・神経疾患と看護について学ぶ。					オンデマンド授業のみ。 レポート課題あり		
第3回	認知症におけるコミュニケーション			【教室内演習】(ユニフォーム不要) ユマニチュード、パーソンセンタードケアについてロールプレイングを通して学ぶ。					演習提出物あり		
第4回											
第5回	高齢者の排泄機能の特徴と排泄ケア			【講義】高齢者の排泄機能の特徴と排泄ケアについて学ぶ。					体験型レポート課題あり		
第6回											
第7回	老年看護における看護過程の展開			【講義】生活機能アセスメント、目標志向型アプローチ、生活の場における目標設定と優先順位決定					演習提出物あり		
第8回	事例展開 (A)			【教室内演習(個人)】情報の整理と分析							
第9回				【教室内演習(個人)】情報の整理と分析							
第10回				【教室内演習(個人)】関連図作成、アセスメントの要約							
第11回				【教室内演習(個人)】計画立案							
第12回	事例展開 (B)			【教室内演習(個人)】事例作成					演習提出物あり		
第13回				【教室内演習(個人)】情報の整理と分析							
第14回				【教室内演習(個人)】関連図作成、アセスメントの要約							
第15回				【教室内演習(個人)】計画立案							
授業方法(少人数・グループ等)	PBL(問題解決型学習)	ロールプレイング									
評価方法及び評価基準	<p>試験(40%)：持ち込み不可とする。 レポート課題(10%)：未提出の場合は配点なし。提出遅れの場合は5点減点とする(公欠除く)。 予習課題(10%)：全提出で10点、それ以外は1提出1点とする。なお、実施内容が乏しい場合は配点しない。 演習提出物(40%)：未提出の場合は配点なし。提出遅れの場合は5点減点とする(公欠除く)。内容が乏しい場合は減点する。</p>										
課題等	レポート課題がある。										
事前事後学修	予習課題を設ける。各講義前日までにTeams上で提出(課題機能使用)する。該当講義日以降は受理しない。										
教科書参考書	<p>【教科書】系統看護学講座-専門分野 老年看護学 第9版 医学書院 ISBN 978-4-260-03186-8 系統看護学講座-専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版 医学書院 ISBN 978-4-260-03172-1 根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版、医学書院 (ISBN 9784260024983)</p> <p>【その他】資料を講義時に配布する。解剖ノートも持参するように。</p>										
留意点	一部授業回はオンデマンド形式のみとなります。初回授業で日程表を配布します。										

科目名	小児看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-18. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30021		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤 史恵 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 小児の成長・発達の特徴、小児と家族の関係、望ましい成育環境、小児をとりまく社会環境等を学び、小児看護の基本となる概念と支援について理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 3-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の目的、対象、役割、活動分野の概要が説明できる。 2. 小児の権利を尊重した看護について説明できる。 3. 小児と家族を取り巻く社会環境とその影響について説明できる。 4. 小児と家族を支援するための法律や施策について説明できる。 5. 小児各期の標準的な成長・発達と過程について述べるができる。 6. 小児各期における生活の特徴と健康課題について述べるができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	小児看護の対象と小児看護の目的 小児と家族の諸統計		①小児看護の対象、目的、役割について学ぶ。 ②人口動態統計データから小児の出生率、死亡率、死亡原因等を学ぶ【復習課題】ブリーフレポート							
第2回	小児看護における倫理と子どもの権利		小児看護の歴史と変遷、子どもの人権と小児看護における倫理を学ぶ							
第3回	小児と家族と取り巻く社会の現状		①小児と家族の相互関係および家族の現状と課題について学ぶ ②我が国の児童福祉施策を理解する					誘導ディスカッション		
第4回	わが国の母子保健施策		①小児と家族の健康を守る法律と施策を理解する ②子どもの健康を支える社会制度を学ぶ					ペアワーク		
第5回	小児看護における理論と成長発達		①小児看護で活用される理論を学ぶ ②小児の成長発達の一般的原則と特徴、および評価の方法を学ぶ 【復習課題】理論に基づく発達段階表の作成							
第6回	小児の発達段階(1) 新生児・乳児		新生児・乳児の身体的特徴と日常生活および健康課題を学ぶ							
第7回	小児の発達段階(2) 幼児		幼児期の身体的・心理的特徴と日常生活および健康課題を学ぶ							
第8回	小児の発達段階(3) 学童・思春期		学童期・思春期の身体的・心理的特徴と日常生活および健康課題を学ぶ							
授業方法(オンライン・ブレンド・フリップ・ラーニング等)	ペアワーク	グループワーク	誘導ディスカッション	理解度チェック	リフレクションシート	資料記入				
評価方法及び評価基準	<p>筆記試験、複数の課題レポート、授業参加態度から総合的に評価し、60点以上を合格とする。 評価割合は筆記試験90%、課題レポートおよび授業参加態度を10%とする。 筆記試験は到達目標1~6を網羅した問題とする。課題レポートは様式および論理性と内容の適切さを評価する。授業参加態度は指示された提出物の提出状況から評価する。</p>									
課題等	課題は、様式に沿って必ず提出してください。									
事前事後学修	事前学修：授業主題に相当する部分の教科書を読み、内容を理解する。事後学修：各自講義内容のノート整理を行う。事前事後学修には合わせて1時間以上の時間が必要。									
教材教科書参考書	教科書：「系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論」(医学書院) ISBN 978-4-260-03860-7 参考書：授業中に適宜紹介 その他、資料配付やVTR等の教材を使用する。									
留意点	内容が多いので予習・復習をしっかりと行って授業に参加して下さい。 毎回出席確認・リフレクションシート・理解度チェックを提出してもらいます。 予習・復習に関する課題レポートや小テストについてはその都度提示します。									

科目名	小児看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-19. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30022		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤史恵、木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>子どもの疾病や障害の状況に適した看護が実践できるための知識と方法を学ぶ。子どもの入院環境、健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響、症状を示す子どものアセスメントと援助方法などを理解する。小児の発達については、小児の遊びを考えながら学びを深めていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達をふまえながら特徴を理解できる 2. 疾病が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる 3. 子どもの疾患に多く見られる症状および看護について説明できる 4. 疾病の経過に伴う子どもと家族の看護について子どもの発達をとらえながら説明できる 									
授業計画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	オリエンテーション 病気・障害を持つ子どもと家族の看護		病気・障害に対する子どもの反応、病気・治療に伴うストレス 子どもの病気・障害に対する家族の反応、グループワーク 事後レポート：健康問題と看護 (以降、毎授業において、小児の発達)						齊藤	
第2回	急性期・周手術期の子どもの看護		急性疾患とは、急性期の子どもと家族の特徴と看護、周手術期の子どもと家族の看護						齊藤	
第3回	終末期の子どもと家族の看護		終末期とは、子どもへのケア、家族へのケア DVD視聴						齊藤	
第4回	慢性期にある子どもと家族の看護		慢性疾患とは、慢性期の子どもと家族の課題、慢性期の子どもと家族の支援、DVD視聴、グループワーク						木田	
第5回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(1)		検査・処置について、子どもにとっての検査・処置体験とは 外来看護について、子どもの入院環境						齊藤	
第6回	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(2)		在宅療養中の子どもと家族の看護、医療的ケアについて 災害時の子どもと家族の看護、DVD視聴						齊藤	
第7回	臨床看護方法①/ 情報収集とアセスメント		コミュニケーション、ヘルスアセスメント、栄養・排泄・活動 事前レポート：小児のフィジカルアセスメント①、②						齊藤	
第8回	臨床看護方法②/バイタルサイン測定		バイタルサイン測定、身体計測						齊藤	
第9回	症状を示す子どもの看護(1)		不機嫌・啼泣、痛み						木田	
第10回	症状を示す子どもの看護(2)		呼吸困難、チアノーゼ、ショック						齊藤	
第11回	症状を示す子どもの看護(3)		発熱、嘔吐・下痢・便秘、脱水・浮腫 事後レポート：小児の発達に応じた遊び(資料記入)						齊藤	
第12回	症状を示す子どもの看護(4)		貧血、出血、黄疸 事後課題：発達段階おもちゃ作成						木田	
第13回	症状を示す子どもの看護(5) 臨床看護方法③/与薬の援助		けいれん、発疹、子どもの与薬：経口、坐薬、点滴 動画視聴						齊藤	
第14回	障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待		障害のとらえ方、障害のある子どもと家族の特徴、支援 子どもの虐待について						齊藤	
第15回	低出生体重児の看護 学習内容の確認とまとめ		低出生体重児と家族の看護 小児の発達段階別遊び発表会						齊藤	
授業方法(オンライン・ブレンド・フリップ・ラーニング等)	ペアワーク	グループワーク	誘導ディスカッション	資料記入	理解度チェック	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	<p>毎回の授業後の理解度チェック・筆記試験・課題・レポート(ルーブリック等の評価)・受講態度を総合的に評価し、60点以上を合格とする。評価割合は、筆記試験90%、レポート他10%とする。提出物が提出されない場合は、評価が受けられない場合がある。</p>									
課題等	<p>実践に備え、利用できるよう課題を作成していくため、内容が不十分な場合は再提出となる。</p>									
事前事後学修	<p>事前にテキストにおいて授業内容の部分を読み、頭に入れておくこと。毎回の授業後に出された理解度チェックをもとに毎回学習を繰り返す、知識を定着させておくこと。授業と授業の間に3時間程度</p>									
教材教科書参考書	<p>教科書：「系統看護学講座専門Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 小児看護学①」医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7 「系統看護学講座専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②」医学書院 ISBN 978-4-260-03866-9 参考書：「写真でわかる小児看護技術アドバンス」インターメディアカ ISBN 978-4-89996-409-4</p>									
留意点	<p>小児看護学概論、人体の構造と機能、疾病論の学習内容と深く関連しています。フィジカルアセスメントや症状看護については基礎看護学で学修したことを踏まえて講義を行います。 講義の妨げとなるような行為(おしゃべり、携帯、授業中の出入り)、授業中の居眠りは、出席とみなさない場合もあるので注意してください。</p>									

科目名	小児看護援助論Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP 2-32. H N		単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期	
			科目コード	N30063			30時間					
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤史恵、木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>TBL(チーム基盤型学習)において反転授業を取り入れ、グループダイナミクスを活用した学生主体の演習を展開する授業である。小児看護学に関連する知識と技術を統合し、ダイナミックに変化する小児の発達段階を追いながら、看護における「こどもとの向き合い方」の具体的な援助方法を学んでいく。本授業はⅠ・Ⅱを通して、臨地実習の直前に行われる授業として、主体的に学ぶ姿勢と、実践のための臨床的な判断能力・思考力を段階的に身につける重要な授業となっている。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 3-2, 5-1に関連している。</p>											
到達目標	<p>1. 活発なグループワークを通して、学生個人が主体的に学習活動を展開できる</p> <p>2. 疾患別の看護援助方法をその根拠となる理論をもとに理解できる</p> <p>3. 小児の発達段階をふまえて個別性に応じた看護計画を立案できる</p> <p>4. 小児看護に必要な基礎的な看護技術を習得できる</p>											
授 業 計 画												
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考			
第1回	授業ガイダンス 糖尿病の疾患を持つ子どもの看護		授業の説明、確認テスト(IRAT, GRATの実施)、事例に基づく応用演習課題、反転学習、TBL						齊藤・木田			
第2回			事前課題：糖尿病の疾患を持つ子どもの看護									
第3回	第1学習ユニット ＜乳幼児＞ 呼吸器疾患の看護 (発熱、呼吸困難の看護)		①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション、クイズ、小テスト 事前課題：呼吸器疾患の看護 事後課題：事例アセスメントレポート						反転学習、TBL			
第4回			②応用演習課題の提示とグループワーク(2)、プレゼンテーション発表、ポスター作成(看護問題、看護計画)とディスカッション 事後課題：演習計画立案						齊藤・木田			
第5回			③技術トレーニング、振り返り(リフレクションシート)と理解度チェック(テスト)、ピア評価						齊藤・木田			
第6回												
第7回												
第8回												
第9回	第2学習ユニット ＜乳児＞ 先天性心疾患の看護 (循環状態の観察、身体計測、経管栄養、調乳)		①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション、クイズ、小テスト 事前課題：先天性心疾患の看護 事後課題：事例アセスメントレポート						反転学習、TBL			
第10回			②応用演習課題の提示とグループワーク(2)、プレゼンテーション発表、ポスター作成(看護問題、看護計画、関連図)とディスカッション 事後課題：演習計画立案						齊藤・木田			
第11回			③技術トレーニング、振り返り(リフレクションシート)と理解度チェック(テスト)、ピア評価						齊藤・木田			
第12回												
第13回												
第14回												
第15回	技術トレーニング (点滴、シーネ固定)		学習のまとめ						齊藤・木田			
授業方法(方法、手段、教材、教材、教材等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	クイズ、小テスト	理解度チェック	リフレクションシート						
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2以上であることが評価の条件である。ほぼ毎回テストがあるため、欠席には注意が必要である。各ユニットにおいて、事前確認テスト40点、理解度チェック(テスト)20点、グループ・個人ファイル(演習課題・アセスメントレポート)30点、受講態度10点(個人による点数とチームによる点数、ピア評価も含まれる)</p>											
課題等	ほぼ毎授業で課題がある。提出物(ファイル等)の期限は厳守すること。											
事前事後学習	<p>既存の学習(1・2年生)の確認は必須である。授業期間中のアセスメント計画立案や看護技術にいたるまで、幅広く学習する必要がある。</p> <p>事前事後学習時間の目安：1日当たり1時間、週当たり3時間ほど</p>											
教材教科書参考書	<p>現在までの授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。</p> <p>教科書：系統看護学講座専門22「小児看護学(1)」, 専門23「小児看護学(2)」, 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7, 978-4-260-03866-9</p> <p>サブ教科書：「発達段階からみた小児看護過程」 医学書院 ISBN 978-4-260-00624-8</p> <p>「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ ISBN 978-4-89996-409-4</p>											
留意点	<p>小児看護学概論、小児看護方法論、疾病論(小児科学)等の知識を統合して実施する授業なので、幅広い復習が必要である。主体的な学習活動であり、学習を進めるのは基本的に個人である。チーム学習の特色上、自主的に課題をやらない場合、ワークに参加することは難しい。グループワーク、個人課題にかかわらず、準備不足の時には授業への参加を認めないことがある。この単位を修得しないと臨地実習は履修できない。</p>											

科目名	小児看護援助論Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP 2-33. H N		1単位 30時間	対象学年	3年	開講学期	前期
			科目コード	N30064						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤史恵、木田優子 (実務経験のある教員)			授業形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>TBL(チーム基盤型学習)において反転授業を取り入れ、グループダイナミクスを活用した学生主体の演習を展開する授業である。小児看護学に関連する知識と技術を統合し、ダイナミックに変化する小児の発達段階を追いながら、看護における「こどもとの向き合い方」の具体的な援助方法を学んでいく。本授業はⅠ・Ⅱを通して、臨地実習の直前に行われる授業として、主体的に学ぶ姿勢と、実践のための臨床的な判断能力・思考力を段階的に身につける重要な授業となっている。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 3-2, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 活発なグループワークを通して、学生個人が主体的に学習活動を展開できる 2. 疾患別の看護援助方法をその根拠となる理論をもとに応用的に理解できる 3. 小児の発達段階をふまえて個別性に応じた看護計画を立案できる 4. 小児看護に必要な実践的な看護技術を習得できる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	技術トレーニング		授業の説明、学習の準備						齊藤・木田	
第2回	第3学習ユニット 血液・造血器疾患の看護 (検査時のプレパレーション) <学童>		①確認テスト(IRAT, GRATの実施)、ミニ講義とフィードバック、事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション、クイズ、小テスト 事前課題: 血液・造血器疾患の看護 事後課題: 事例アセスメントレポート						反転学習、TBL 齊藤・木田	
第3回										
第4回			②応用演習課題の提示とグループワーク(2)、プレゼンテーション発表、ポスター作成(看護問題、看護計画)とディスカッション 事後課題: 演習計画立案						齊藤・木田	
第5回										
第6回			③プレパレーション・ロールプレイング発表準備、グループワーク						齊藤・木田	
第7回										
第8回			④ロールプレイング(プレパレーション発表会)、振り返りと理解度チェック(テスト)、ピア評価						齊藤・木田	
第9回										
第10回			第4学習ユニット 慢性疾患の看護 (医療的ケア児)木田・齊藤		①事例に基づく応用演習課題の提示とグループワーク(1)、ディスカッション、クイズ、小テスト 事前課題: 慢性疾患(医療的ケア児)の看護 事後課題: 事例アセスメントレポート					
第11回										
第12回	②応用演習課題の提示とグループワーク(2)、プレゼンテーション発表、ポスター作成(看護問題、看護計画)とディスカッション 事後課題: 演習計画立案						木田・齊藤			
第13回										
第14回	③技術トレーニング、振り返りと理解度チェック(テスト)、学習のまとめ、ピア評価						木田・齊藤			
第15回										
授業方法(方法、手段、教材、教材、教材等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	クイズ、小テスト	理解度チェック	リフレクションシート				
評価方法及び評価基準	<p>出席が3分の2以上であることが評価の条件である。ほぼ毎回テストがあるため、欠席には注意である。</p> <p>各ユニットにおいて、事前確認テスト40点、理解度チェック(テスト)20点、グループ・個人ファイル(演習課題・アセスメントレポート)30点、受講態度10点(個人による点数とチームによる点数、ピア評価も含まれる)</p>									
課題等	ほぼ毎授業で課題がある。提出物(ファイル等)の期限は厳守すること。									
事前事後学習	<p>既存の学習(1・2年生)の確認は必須である。授業期間中のアセスメント計画立案や看護技術にいたるまで、幅広く学習する必要がある。</p> <p>事前事後学習時間の目安: 1日当たり1時間、週当たり3時間ほど</p>									
教材教科書参考書	<p>現在までの授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。</p> <p>教科書: 系統看護学講座専門22「小児看護学(1)」, 専門23「小児看護学(2)」, 医学書院 ISBN 978-4-260-03860-7, 978-4-260-03866-9</p> <p>サブ教科書: 「発達段階からみた小児看護過程」 医学書院 ISBN 978-4-260-00624-8</p> <p>「写真でわかる小児看護技術アドバンス」 インターメディカ ISBN 978-4-89996-409-4</p>									
留意点	小児看護学概論、小児看護方法論、疾病論(小児科学)等の知識を統合して実施する授業なので、幅広い復習が必要である。主体的な学習活動であり、学習を進めるのは基本的に個人である。チーム学習の特色上、自主的に課題をやらない場合、ワークに参加することは難しい。グループワーク、個人課題にかかわらず、準備不足の時には授業への参加を認めないことがある。この単位を修得しないと臨地実習は履修できない。									

科目名	母性看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-21. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	30024		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 子どもを産み育て、親になる過程、家族を形成する時期、生命の継承にかかわる女性の健康について学び、リプロダクティブヘルス/ライツの理解を深め、母性看護にかかわる倫理的課題を学びます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護学の基盤となる概念を説明できる 女性や母子・家族を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる 親になるプロセスや家族形成、家族の発達と課題について説明できる 女性のライフサイクルにおける身体的変化と健康問題について説明できる 性周期、妊娠について説明できる 母性看護の場で生じる倫理的課題について考察できる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	母性の概念①		「母性とは」何か						グループワーク	
第2回	母性の概念②		母性の概念 p2～22						プレゼンテーション・講義	
第3回	母子を取り巻く社会の変遷と現状		母性看護の変遷、統計、法律、施策 p58～97						講義	
第4回	家族とは、子育てとは		母子関係、父子関係、家族の発達段階、家族システム、母性の世代間伝達 p127～154						講義	
第5回	女性の身体のライフサイクルに応じた変化		身体発育、女性の性周期の変化、妊娠のメカニズム、胎児の性分化p100～127 子宮力						講義	
第6回	ライフステージ各期の健康問題と看護		思春期・成熟期の健康問題と看護、月経異常、更年期・老年期の健康問題と看護、性差医療、p195～250						講義	
第7回	産み育てることの生命倫理		母性看護にかかわる生命倫理総論 (各論はリプロダクティブヘルス/ライツで行う)						講義とペアワーク	
第8回	産み育てることの問題		児童虐待の実態、児童虐待防止 p308～316						講義	
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席により評価の対象となります。 グループワークの相互作用10%、 レポート課題(課題に示したテーマ) 50% 授業シートのコメント40%(5点×8回)</p>									
課題等	レポート：母性看護学概論で学んだこと、提言したいこと。表紙をつけてA4、1枚程度。									
事前事後学修	社会で話題になっていることを調べて授業に臨んで下さい。									
教材教科書参考書	<p>教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 ISBN978-4-260-04225-3 参考図書： 病気がみえる vol.10, 産科, メテックメディア, 2013 ISBN978-4-89632-713-7 標準産科婦人科学, 医学書院, 2014 ISBN978-4-260-04265-9 * 随時、資料配付します。</p>									
留意点	後期のリプロダクティブヘルス/ライツに続きます。									

科目名	母性看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-22. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30025		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬 富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、胎児期・新生児期にある対象者の健康問題を総合的に捉え、正常経過の看護、異常時の看護についての基礎的知識を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の生理・正常経過が理解できる。 2. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の異常が理解できる。 3. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の健康診査がわかる。 4. マタニティサイクル(妊娠期・分娩期・産褥期)にある女性や胎児・新生児の健康教育がわかる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	妊娠期の看護①		妊娠の成立						講義	
第2回	妊娠期の看護②		事例紹介、マタニティ診断、妊娠の確定、分娩予定日・時期						講義	
第3回	妊娠期の看護③		妊婦健康診査						講義	
第4回	妊娠期の看護④		妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫流早産など 妊娠期の異常、						講義	
第5回	妊娠期の看護⑤		妊娠期の心理・社会的特性、妊娠期の生活、保健相談						講義 ペアワーク	
第6回	分娩期の看護①		分娩の4要素、分娩の機序、分娩経過						講義	
第7回	分娩期の看護②		分娩の4要素、分娩の機序、分娩経過						講義	
第8回	分娩期の看護③		分娩期の異常、正常から逸脱した産婦の看護						講義	
第9回	産褥期の看護①		産褥期の身体的変化、産褥のアセスメント						講義	
第10回	産褥期の看護②		産褥期の身体的変化、産褥のアセスメント						講義	
第11回	産褥期の看護③		産褥期の異常、正常から逸脱した産婦の看護						講義	
第12回	新生児の看護①		新生児の生理、アセスメント						講義	
第13回	新生児の看護②		新生児の生理、アセスメント						講義	
第14回	新生児の看護③		新生児期の異常、正常から逸脱した新生児の看護						講義	
第15回	まとめ		母性方法論のまとめ、重要な項目確認						講義	
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	ペアワーク									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 筆記試験70% 授業シートのコメント30%									
課題等	前回の講義の重要な項目の確認小テストを行います。									
事前事後学修	事前学習は教科書で確認しておきましょう。講義終了後は講義資料を復習してください。									
教材教科書参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ISBN978-4-260-04223-9 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ ISBN978-4-89996-410-0 参考書：病気がみえる 産科 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-713-7									
留意点	母性看護の核となる妊娠・分娩・産褥・新生児期の根拠となる理論を学び、母性看護援助論に続きます。									

科目名	母性看護援助論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-23. H N	単位数 時間	1単位 30時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30026						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬富士子、菅原光子 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>母性看護方法論で学んだマタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、胎児・新生児期にある対象者の健康問題を総合的に捉え、正常経過の看護、異常時の看護についての基本的知識をもとに、母性看護の援助の実践を学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの3に関連し、カリキュラムポリシーの3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクル（妊娠期・分娩期・産褥期）にある女性、新生児の健康診査、健康教育・援助を行うことができる。 2. 母性看護学に必要な看護技術ができる。 3. 事例の看護過程展開ができる。 4. 保健指導を理解し、実践の準備ができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	妊娠期の看護		妊婦健康診査、保健指導					大瀬 4/10(木)5限		
第2回	分娩期の看護		分娩第1期～第4期の看護、胎盤観察、異常時の看護					大瀬 4/17(木)5限		
第3回	新生児期の看護		出生直後の新生児のケア、新生児蘇生法					大瀬 4/24(木)5限		
第4回	新生児期の看護		出生当日～生後5日の看護					大瀬 5/1(木)5限		
第5回	褥婦の看護		母乳育児支援とは					菅原 5/8(木)5限		
第6回	褥婦の看護		分娩当日～分娩後5日の看護、帝王切開の看護					大瀬5/15(木)5限		
第7回	産後健診		2週間健診（母乳外来）、1か月健診					大瀬 5/22(木)5限		
第8回	育児支援		育児支援とは					菅原 5/29(木)5限		
第9回	看護過程展開		事例による母性看護過程展開					大瀬6/5(木)5限		
第10回	母性看護技術		ABグループ演習 妊婦健康診査、褥婦診察	CDグループ 看護過程展開	EFグループ 保健指導パンフレット作成	大瀬・菅原 6/16(月)1限				
第11回	母性看護技術		ABグループ演習 新生児診察・清潔	CDグループ 看護過程展開	EFグループ 保健指導パンフレット作成	大瀬・菅原 6/16(月)2限				
第12回	母性看護技術		ABグループ 看護過程展開	CDグループ 保健指導 パンフレット作成	EFグループ 妊婦健康診査、褥婦診察	大瀬・菅原 6/20(金)1限				
第13回	母性看護技術		ABグループ 看護過程展開	CDグループ 保健指導 パンフレット作成	EFグループ 新生児診察・清潔	大瀬・菅原 6/20(金)2限				
第14回	母性看護技術		ABグループ 保健指導 パンフレット作成	CDグループ演習 妊婦健康診査、褥婦診察	EFグループ 看護過程展開	大瀬・菅原 7/4(金)1限				
第15回	母性看護技術		ABグループ 保健指導 パンフレット作成	CDグループ演習 新生児診察・清潔	EFグループ 看護過程展開	大瀬・菅原 7/4(金)2限				
授業方法(レポ・マド・ラボ・シミュレーション等)	グループワーク									
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 筆記試験50% 提出物 20% 演習15% 授業アンケートのコメント15%									
課題等	看護過程展開									
事前事後学修	母性看護方法論を復習して下さい。 授業で学んだ技術は母性看護学実習初日に技術チェックします。練習しておきましょう。									
教科書 参考書	教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院（母性看護方法論で購入済） ISBN978-4-260-04223-9 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ ISBN978-4-89996-410-0（方法論で購入済の方は不要） 参考書：病気がみえる 産科 MEDIC MEDIA ISBN978-4-89632-713-7									
留意点	母性看護方法論では母性看護の核となる妊娠・分娩・産褥・胎児期・新生児期の根拠となる理論を学びましたが、母性看護援助論では母性看護、母性看護技術を学びます。									

科目名	次世代育成ケア論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-24. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30041		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	大瀬富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 子どもが幸福と感じ、未来が明るくなるためにできることは何か。子供の成長育児を理解した上で育児の歴史的考察や、育児・育児支援の諸問題をクリティカルな視点で考える。主旨は看護観を深めることである。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー-3に関連し、カリキュラムポリシー-3-1, 3-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 育児の歴史的考察から諸問題を考えることができる。 2. 子どもの成長、育児を理解できる。 3. 現状をクリティカルな思考で考えることができる。 4. 育児支援のあり方を考え表現できる。 5. 看護観を深めることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	日本の子どもの幸福			逝きし世の面影から見る日本の子どもの幸福					講義	
第2回	初めての育児			赤ちゃんのお父さんお母さんに伝えること					グループワーク	
第3回	初めての育児			赤ちゃんのお父さんお母さんに伝えること					プレゼンテーション	
第4回	歓喜と豊穡の経験			おむつなし育児を考える					講義・ペアワーク	
第5回	地域で産み育てる			地域で産み育てる社会問題を考える					講義・グループワーク プレゼンテーション	
第6回	母乳育児			母乳育児の歴史的考察					講義	
第7回	産み育てることの変遷			産み育てることの変遷から見る育児支援					講義	
第8回	育児支援のあり方			育児支援のあり方はどうあるべきか					講義・グループワーク プレゼンテーション	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席により評価の対象となります。 グループワーク・ペアワークの相互作用、プレゼンテーション20%、 授業シートのコメント80%									
課題等	授業シートを充実させる									
事前事後学修	社会で話題になっていることに関心をもち主体的な意見をもって参加して下さい。									
教材教科書参考書	随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。参考書を購入する必要はありません。									
留意点	子育てに関することに興味関心をもって臨んでください。									

科目名	リプロダクティブヘルス/ライツ		科目ナンバリング	N-NP NP 2-25. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30042		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、対象を理解し、セクシュアリティとジェンダー、女性の健康問題・社会的問題を歴史的・国際的視点から理解する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツを考察し、実現できるための行動を考えることができる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシー3に関連し、カリキュラムポリシー3-1、3-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を理解し問題を考えることができる。</p> <p>2. セクシュアリティに関する概念、人間の性の特徴、ジェンダー、性的マイノリティについて理解することができる。</p> <p>3. 女性の健康問題・社会的問題を歴史的・国際的視点から理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	プレコンセプションヘルス		リプロダクティブヘルスのための妊娠前からの健康						講義 ペアワーク	
第2回	胎児の障がい		出生前診断、倫理的課題、意思決定を支える看護pp14～30 (教科書2)						講義	
第3回	不妊への看護		生殖補助医療、倫理的課題、意思決定を支える看護pp30～60 (教科書2)						講義 ペアワーク	
第4回	性感染症と望まない妊娠を防ぐ リプロヘルスサポーターの役割		家族計画の考え方、受孕調節の原理と方法、性感染症の罹患状況と予防法、HPVワクチンを考える pp250～256 (教科書1)、人工妊娠中絶の動向と影響pp256～282						講義 ペアワーク	
第5回	国際社会の リプロダクティブヘルス/ライツ		SDGs、難民、児童婚など世界の女性の命と健康と権利						講義	
第6回	性暴力を受けた女性へのケア		暴力被害を受けた女性の実態とケア、国際社会の現状pp291～300 (教科書1)						講義	
第7回	セヒューマン・クシュアリティ		概念、発達、性の分化、性の多様性、LGBTQ、ジェンダー、性行動、包括的性教育 pp20～23. 117～123 (教科書1)						講義と ペアワーク	
第8回	子宮頸がんワクチン		子宮頸がんワクチン接種を考える						講義	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(グループワーク)										
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席により評価の対象となります。</p> <p>ペアワークの相互作用10%、 レポート課題(課題に示したテーマ)50% 授業シートのコメント40%</p>									
課題等	<p>レポート：授業で学んだこと、リプロダクティブヘルス/ライツで提言したいこと 表紙をつけてA4 1枚程度。</p>									
事前事後学修	<p>社会で話題になっていることを調べて授業に臨んで下さい。</p>									
教材教科書参考書	<p>教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院 (前期使用) ISBN978-4-260-04225-3 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 (前期使用) ISBN978-4-260-04223-9</p> <p>* 随時、資料配付、参考文献の紹介を行う。</p>									
留意点	<p>母性看護学概論に続く科目です。 新聞、書籍等に関心をもち主体的な意見をもって参加すること。</p>									

科目名	精神看護学概論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-26. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30027		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>心の問題は健康生活にとって極めて重要である。心の健康が個人の健康生活を維持するだけでなく社会に大きな影響を及ぼすこともある。心のしくみや不安と防衛機制、ストレス、幼児期から老年期に至るまでの心の発達と健康問題、そして、現代社会における精神保健活動について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 心の健康についての考え方、見方、影響する因子について理解できる。</p> <p>2. 心の発達と健康問題について理解できる。</p> <p>3. 現代社会における精神保健上の主な問題について理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	精神障害と精神保健			わが国の精神保健上の問題について						
第2回	地域精神保健			地域ケアへの転換について リハビリを機軸とした精神医療について						
第3回	精神の発達過程			エリクソンの漸成的発達理論、マズローの欲求5段階説など						
第4回	精神（心）の危機状況と精神保健①			危機理論について						
第5回	精神（心）の危機状況と精神保健②			セルフマネジメント・アンガーマネジメント・コーチングについて						
第6回	精神（心）の構造とはたらき			意識と無意識 防衛機制について						
第7回	現代社会と精神（心）の健康			社会構造の変化と社会病理						
第8回	現代社会における精神保健活動			精神保健活動における課題について						
授業方法(オンライン、グループワーク等)	資料記入	グループワーク	発表、ポスター作成							
評価方法及び評価基準	講義への参加度やグループワーク（20点）、定期試験（80点）を合計して評価する。									
課題等	講義の内容は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後学修	<p>主題について予習し、講義内容は復習すること。</p> <p>学習時間の目安：1日当たり30分以上</p>									
教材教科書参考書	岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学概論・精神保健、メジカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3389-1									
留意点	心の問題に関する記事や報道に関心を持ち、最近の動向を調べましょう。									

科目名	精神看護方法論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-27. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30028		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神に障がいをもつ人々に対する看護の役割について、また、精神障がい者のコミュニケーションの特徴、精神障がい者との関係のつくり方、コミュニケーション技術、精神症状のとりえ方について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症および双極性障害の発病と回復の過程をイメージできる。 2. 精神看護学における看護実践の倫理的側面を理解する。 3. 精神看護の援助における対人関係の基本を理解する。 4. 治療チームにおける看護の機能と役割を理解する。 5. クライアントの生活についての様々な困難と課題および解決方法を理解する。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	精神医療の歴史と法の変遷		精神医療をめぐる法の変遷について 精神保健福祉法と患者処遇のガイドラインについて							
第2回	精神症状の理解（1）		知覚の障がい、思考の障害、自我意識の障害について							
第3回	精神症状の理解（2）		感情の障害、知能の障害、記憶の障害について							
第4回	統合失調症の病態の理解		統合失調症の経過（発病前、急性期、回復期、慢性期など）および、それぞれの時期の主な特徴について							
第5回	統合失調症急性期の経過と回復過程（1）		統合失調症の発病と回復過程について 精神構造の理解							
第6回	統合失調症急性期の経過と回復過程（2）		回復過程の各段階における看護と具体策について							
第7回	精神障害の状態像および現象群		精神障害の状態別にみた具体策について							
第8回	双極性障害の発病と回復過程における看護の役割（1）		双極性障害の経過 うつ病エピソードと躁病エピソードについて							
第9回	双極性障害の発病と回復過程における看護の役割（2）		双極性障害の薬物療法、双極性Ⅱ型障害、非定型うつ病について							
第10回	嗜癪の理解とアディクション看護		物質関連障害および嗜癪性障害について							
第11回	認知症の治療と看護		わが国における認知症の現状 認知症の治療と看護について							
第12回	てんかんおよび身体表現性障害		てんかんの病理と看護について 身体表現性障害の病理と看護について						オンデマンド	
第13回	パーソナリティ障害および摂食障害の治療と看護		パーソナリティ障害の概念および看護介入について 摂食障害の概念および看護介入について							
第14回	薬物療法と看護の役割（1）		抗精神病薬の作用機序について 精神科で扱う主な薬物療法について							
第15回	薬物療法と看護の役割（2）		抗精神病薬の主な副作用（麻痺性イレウス、悪性症候群、水中毒など）と看護について							
授業方法 (オンデマンド、ライブ アナーキング等)	資料記入	理解度チェック								
評価方法 及び 評価 基準	講義への参加度と学習態度、理解度チェック（20点）、定期試験（80点）を合計して評価する。									
課題等	講義で分かりにくい箇所は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後 学修	疾病論Ⅱおよび精神看護学概論の資料を見直し、復習してから講義に臨むこと。また、講義内容を確認し、予習してから講義に臨んで下さい。学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	<p>教科書：</p> <p>岩崎弥生，渡邊博幸：新体系，看護学全書，精神看護学②，精神障害をもつ人の看護，メジカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3390-7</p> <p>阿保順子他：統合失調症急性期看護学，すびか書房 ISBN: 978-4-902630-30-5</p>									
留意点	精神看護援助論および精神看護学実習に連動する講義であるため自己学習を怠らないこと。									

科目名	精神看護援助論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-28. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30029		30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	ひとりひとりの精神障がい者のおかれた状況や心の問題に深い理解を示し、その人に適した援助をするための方策や自立を支える生活支援の方法をグループワークを通して学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、5-1に関連している。									
到達目標	1. 困難な局面で援助を提供する方法を考えることができる。 2. 各種の病態像をイメージし、病状に多面的な理解があることを学ぶ。 3. 看護過程の展開の実際を理解し実施できる。 4. プロセスレコードから言動を振り返り、対象者の必要な援助を考えることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	看護過程の展開方法		基本情報のまとめ方・情報の分析方法・問題点の抽出・優先順位・看護計画の立案について							
第2回	プロセスレコード		プロセスレコードの活用目的・考察視点・記載方法など							
第3回	統合失調症における看護過程の展開①		統合失調症における事例の説明							
第4回	統合失調症における看護過程の展開②		基本情報の整理							
第5回	統合失調症における看護過程の展開③		情報の分析							
第6回	統合失調症における看護過程の展開④		問題点の抽出および優先順位の決定							
第7回	統合失調症における看護過程の展開⑤		看護計画の立案							
第8回	統合失調症における看護過程の展開⑥		看護過程の発表および解説							
第9回	双極性障害における看護過程の展開①		双極性障害における事例の説明							
第10回	双極性障害における看護過程の展開②		基本情報の整理							
第11回	双極性障害における看護過程の展開③		情報の分析							
第12回	双極性障害における看護過程の展開④		問題点の抽出および優先順位の決定							
第13回	双極性障害における看護過程の展開⑤		看護計画の立案							
第14回	双極性障害における看護過程の展開⑥		看護過程の発表および解説							
第15回	まとめ		授業の総括							
授業方法(わ ず、フ グ、 等)	PBL (問題解決型学習)	グループワーク	誘導ディスカッション							
評価 方法 及び 評価 基準	課題(看護過程)の提出(50点)、定期試験の成績(50点)を合計して評価する									
課題 等	演習時間内に看護過程の展開が終了できないグループは次回までの課題とする。									
事前事 後学修	看護過程の展開が円滑にできるよう精神看護方法論を振り返り各自で復習しておくこと。 学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材 教科書 参考書	教科書： 岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社(購入済み) ISBN:978-4-8392-3390-7 阿保順子他：統合失調症急性期看護学、すびか書房 ISBN:978-4-902630-30-5(購入済み) グループワークでは講義で使用した資料や教科書を活用するので準備すること。									
留意 点	・ 課題の提出期限を厳守すること。 ・ 演習では学生同士の積極的な意見交換をすること。 ・ 精神看護学実習に直結した学習になるので自己学習を怠らないこと。									

科目名	精神科リハビリテーション論		科目ナンバリング	N-NP NP 2-29. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	N30030		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現在の精神医療は長期入院を避け、地域で生活する精神障がい者が健康で自分らしい生活を送るための支援が重要である。講義では地域で生活する精神障がい者を中心に援助方法の理解を深めて、ノーマライゼーションのための精神保健活動を学習する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 精神科リハビリテーションの意味やあり方について理解できる。 2. 精神障害をもつ人の地域における生活への支援について理解できる。 3. 治療チームにおける看護の機能と役割を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	精神科リハビリテーションとは		精神科リハビリテーションについて リハビリの理念とストレングスについて							
第2回	回復段階に応じたリハビリテーション①		段階（急性期・臨界期）に応じたリハビリテーションと看護							
第3回	回復段階に応じたリハビリテーション②		段階（回復期・維持期）に応じたリハビリテーションと看護							
第4回	事例の検討		精神科リハビリテーションの事例を検討する							
第5回	精神保健と社会復帰施設		精神保健 (mental health) について 社会復帰施設の役割						オンデマンド	
第6回	災害時の精神看護		災害時地域精神保健医療活動と心のケアについて 災害派遣精神医療チーム (DPAT) の役割							
第7回	精神保健医療福祉		精神保健医療福祉に関する考え方 精神科デイケア・ACTなどアウトリーチの実際							
第8回	精神科領域における関連技法		作業療法・社会技能訓練・心理教育・集団療法・認知行動療法・芸術療法など							
授業方法(ウェブモッド、ブレンド・ラーニング等)	資料記入	リフレクションシート	授業中のノート取り							
評価方法及び評価基準	講義への参加度や学習態度・リフレクションシート (20点)、定期試験 (80点) を合計して評価する。									
課題等	講義の内容は下記の教科書や資料を参考に各自で振り返りを行うこと。									
事前事後学修	主題について予習し、講義内容は復習すること。 学習時間の目安：1日あたり30分以上									
教材教科書参考書	岩崎弥生／渡邊博幸：新体系、看護学全書、精神看護学②、精神障害をもつ人の看護、メジカルフレンド社 ISBN: 978-4-8392-3390-7									
留意点	講義で不明な点があれば質問して下さい。オフィスアワーも活用して下さい。									

科目名	国際看護論		科目ナンバリング	N-NP 2-24. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	N30012		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	山田 智恵里 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 国際看護保健医療活動と対象の多様性を理解することにより、日本国内外における看護職の国際看護実践の可能性を考察でき、卒後の専門職として活用できる知識を習得する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2.5.7に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	<p>① 国際看護学に関連する定義・概念、国際看護に含まれる活動領域を理解できる。 ② 世界の健康課題の現状と影響要因を理解し、国際援助機関の概要を理解できる。 ③ 日本の途上国援助の実行機関の概要を理解できる。 ④ 国際看護の対象と、その文化、個人的差異を理解したうえで適した看護ケアを考察できる。 ⑤ 国内で在留外国人の看護ケアにおいて重要である日本語コミュニケーションについて理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	国際看護とは			国際看護の定義と関連する概念、看護師国家試験出題基準の国際化と看護の解説、演習説明、国際看護における活動領域、国際看護の対象						
第2回	世界の健康課題			感染症、非感染症、母子保健、安全保障、健康に影響を及ぼす様々な要因、SDGs						
第3回	世界と日本の国際援助機関			健康・安全に関係する国際機関、日本の機関、(独)国際協力機構(JICA)と海外協力隊(JOCV)、その活動						
第4回	国際看護に必要な能力と多文化看護 国試過去問題集			多文化理解、コミュニケーション、国際看護活動に必要とされる能力とは 問題集概説						
第5回	在留外国人への看護			やさしい日本語の基礎編(順天堂大学)(7分3秒)、外国人の考える「優しい日本語」編(順天堂大学)(10分58秒) やさしい日本語での説明演習						グループワーク
第6回	国際看護協力の実際			JICAフィジー地域保健看護師現任教育プロジェクト、JICAラオス学校保健プロジェクト						
第7回	グループワーク			各グループでテーマ(いくつかの項目を提示)を決定し情報収集、話し合い、発表準備						グループワーク
第8回	演習課題発表、定期試験			演習発表・質疑応答、講評、定期試験(45分)						プレゼンテーション
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(方法、手段、手段等)	グループワーク	発表、ポスター作成	ペアワーク							
評価方法及び評価基準	<p>授業参加度(20点)、グループによるプレゼンテーション(内容の簡潔さと目的適合性、プレゼンテーション技術)(30点)、定期試験(50点)</p>									
課題等	<p>講義前に該当する教科書の個所を読んで理解しておく。プレゼンテーション技法について自分で調べて確認しておくこと。</p>									
事前事後学修	<p>事前学習は上記「課題等」の通り、事後学習はプレゼンテーションの講評内容を振り返ること。また配布された文献類に目を通し、国際看護の理解を深めること。</p>									
教材教科書参考書	<p>南江堂 看護学テキストNiCE 国際看護 ISBN 978-4-524-25264-0 C3047 参考書はありませんが、授業内容に関連した文献を印刷物として配布します。</p>									
留意点	<p>特になし</p>									

科目名	看護管理学		科目ナンバリング	N-NP 2-25. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30010		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	小林 朱実 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	〔授業の主旨〕									
	看護専門職として必要なマネジメントの基礎的知識と、組織的なマネジメントのあり方、それを支える知識を学ぶ。看護管理の基本的な理論、質評価、人材育成、制度・政策、チーム医療等、実践例を交えて学習する。本コースでは、今後の実習・臨床での実践に向けて、臨床の場を管理的視点で多角的にとらえることができる基礎能力の習得を目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの4-1、5-1に関連している。									
到達目標	講義等を通して、以下の目標の達成を目指す。 1. 看護管理に必要な要素、プロセスを学ぶ。 2. 看護専門職として、ケアのマネジメントに必要な知識について理解を深める。 3. 看護ケア提供組織のマネジメントに必要な知識について理解を深める。 4. 医療制度、政策について理解を深める。 5. 看護職として、自己のキャリア発達を考えることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	看護マネジメントの概要		看護管理学とは、サービスの概念、マネジメントの変遷、マネジメントプロセスとマネジメントサイクル、							
第2回	看護ケアのマネジメント		看護職の機能、チーム医療、看護業務とマネジメント、タイムマネジメント、看護職の健康管理と労働安全衛生							
第3回	看護サービスのマネジメント		組織と組織構造、組織マネジメント、看護の組織化、看護ケア提供システム、労働環境							
第4回	患者の権利の尊重と看護を取り巻く諸制度		患者の権利、インフォームドコンセント、意思決定支援、看護職の職業倫理、看護職と法・制度、医療制度							
第5回	医療・看護の質		安全管理、危機管理、看護の質評価、目標管理							
第6回	資源管理と情報のマネジメント		施設・設備環境、物的資源管理、財的資源管理 臨床における情報管理、情報の伝達・共有・活用							
第7回	リーダーシップとマネジメント		リーダーシップスタイル、集団、エンパワーメント、変化と変革							
第8回	人材育成とプロフェッション		看護の専門職性、組織における人材育成、看護職の教育制度、新人看護職員研修制度							
授業方法 (オプショナル、アクティブラーニング等)	リフレクションシート	授業中のノート取り	理解度チェック	クイズ、小テスト						
評価方法及び評価基準	授業への参加度10%、課題提出20%、筆記試験70%で評価する。									
課題等	課題のテーマは講義中に提示する。科目開講期間内に返却する。									
事前事後学修	講義の理解を深めるために、事前に教科書の該当部分に目を通して参加してください。 事前準備の目安：30分以上 受講後は、テキスト・配布資料を使用し復習してください。									
教材教科書参考書	上泉和子、小山秀夫、笈淳夫、鄭佳紅：系統看護学講座統合分野「看護管理」、医学書院、2024、ISBN978-4-260-05304-4									
留意点	学習カードに質問欄を作り、次回講義時に回答します。									

科目名	リスクマネジメント		科目ナンバリング	N-NP NI 2-32.H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
	看護実践科目	必修	科目コード	N30011		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田 まり子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 看護の対象を守るために必要とされる安全管理の視点と看護師の役割について実際の事故事例から学ぶ。また、医療従事者として自分を守るために必要な知識と対策・対応の基本について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1, 3-1, 4-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	1. 医療におけるリスクマネジメントの視点を理解できる。 2. 医療安全、事故防止に向けた看護師の役割について説明できる。 3. 医療事故事例から、事故要因と事故防止対策を関連付けて理解できる。 4. 医療の場で生じる状況・場面を想定した事例から、起こりうる危険を考えることができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	リスクマネジメントと看護師の役割		リスクマネジメントの視点と意義、看護師の役割						講義 グループワーク	
第2回	看護師が関わる医療事故の現状		看護師が関与した医療事故例を1件取り上げ（新聞・インターネット・文献）リスクマネジメントの視点から分析する						個人演習	
第3回	診療の補助業務に伴う医療事故①		与薬業務・医療機器の使用とリスクマネジメント						講義	
第4回	診療の補助業務に伴う医療事故②		輸液・浣腸・チューブ管理とリスクマネジメント						講義	
第5回	療養上の世話に伴う医療事故		転倒・誤嚥・入浴援助とリスクマネジメント						講義	
第6回	看護師を脅かすリスク		職業感染、放射線被ばく、抗がん剤暴露、院内暴力、他						講義	
第7回	医療現場のリスクマネジメント①		組織としての医療安全対策						講義	
第8回	医療現場のリスクマネジメント②		医療事故発生時の対応						講義	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	まとめアクティビティ	リフレクションシート	授業中のノート取り				
評価方法及び評価基準	1. 2/3以上の出席者を評価の対象とする。客観的テスト(70%)、課題レポート(30%)									
課題等	1. 看護師が関与した医療事故事例を1例取り上げ、リスクマネジメントの在り方を考察する。									
事前事後学修	1. 各授業内容に関する既習の基礎科目(人体の構造・機能、薬剤・感染・各種疾病)及び基礎看護技術論・基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ等を復習し臨むこと。 2. 事前・事後学修時間の目安:1日当たり30分程度									
教材教科書参考書	1. 随時プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	1. 各種メディアで報道されている医療事故について関心を持ち、看護師の役割について考えてみること。									

科目名	救急看護		科目ナンバリング	N-NP NI 2-33.S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	N30008		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	村岡 祐介 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 生命危機状態にある患者とその家族への看護を理解するため、救急看護の対象とその特徴、救命処置の基本と原則、および災害急性期における看護活動について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-1, 3-1, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	1. 救急医療および救急看護の特殊性を理解できる。 2. 生命の危機的状況にある患者とその家族の特徴をふまえた援助のありかたについて考えることができる。 3. 一次・二次救命処置における看護師の役割を理解できる。 4. 急性期・クリティカルな場面を通して救急看護の特徴や看護活動を理解できる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考
第1回	救急看護の場と特徴			救急医療システム、プレホスピタルケア、救急患者の特徴						講義
第2回	救急・集中治療における看護活動			救急看護師の役割と活動、集中治療室での看護活動						講義
第3回	救急患者を取り巻く倫理的課題			脳死下臓器提供を行う患者とその家族の看護						講義
第4回	救急患者のアセスメントと対応①			急変時の対応、ショックについて						講義
第5回	救急患者のアセスメントと対応②			救急患者の観察						講義・演習
第6回	救命処置と看護師の役割			一次救命処置演習・二次救命処置						演習
第7回	救命処置と看護師の役割			一次救命処置演習・二次救命処置						演習
第8回	まとめ			授業の総括						講義
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	ロールプレイング	リフレクションシート							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者を評価対象とする。 リフレクションシート(毎回40%)、課題(30%)、演習の参加状況(30%)									
課題等	都度課題を提示する									
事前事後学修	各授業内容に関連する既習の基礎科目(人体の構造・人体の機能、等)を見直して参加すること。 事前・事後学修時間の目安:1日あたり30分程度									
教材教科書参考書	随時プリント配布、参考文献を紹介する。									
留意点	救急看護はフィジカルアセスメントの知識と技術を駆使して、患者の生命を守るための支援を行います。人体の構造・人体の機能・ヘルスアセスメントと関連させて学習します。また、幅広い疾患が対象となりますので、疾病論の内容とも併せて理解を深めて下さい。									

科目名	健康危機管理論 (災害看護含む)		科目ナンバリング	N-NP NI 2-34. S N	単位数 時間	1単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目コード	N30058		15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	中尾 八重子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>[授業の主旨] 健康危機管理の概念および国・都道府県・市町村の健康危機管理体制を理解し、健康危機管理における看護職の役割について学ぶ。災害サイクルに応じた医療保健活動と近年の公衆衛生の課題である感染危機管理について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの2、3に関連し、カリキュラムポリシー2-1、3-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1. 健康危機管理の概念・目的について説明できる。 2. 健康危機管理の制度・システムについて説明できる。 3. 健康危機管理活動における看護職の役割について説明できる。 4. 避難所の生活と必要な支援の演習を通じ、実際の災害時の理解とともに新たな気づきを述べることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
第1回	健康危機管理とは			健康危機管理の概念・目的 災害とは、感染症とは						
第2回	災害と看護活動			災害看護とは 災害サイクル 看護の役割						
第3回	災害発生と社会の対応や仕組み			災害に関する制度、情報の伝達の仕組み、支援体制と災害関係機関						
第4回	災害サイクルと保健医療活動			災害サイクルに沿った保健医療活動 心のケア						
第5回	避難所の生活と必要な支援 (1)			演習：避難所の生活					グループワーク ディスカッション	
第6回	避難所の生活と必要な支援 (2)			演習：避難所における支援 課題：避難所運営に於いて大事なこと (レポート)						
第7回	感染症			感染症とは 感染症に関する制度 結核、AIDS、食中毒など						
第8回	感染症対策			保健所における感染症の健康危機管理						
授業方法 (演習・77分 アナーログ 等)	グループワーク	ディベート								
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、演習の参加状況や課題、定期試験等から総合的に評価。 2) 演習の参加状況：10% 3) 課題 (レポート)：20% 4) 定期試験：70%</p>									
課題 等	課題 (レポート) は、返却しない。									
事前事 後学修	近年の国内外で発生した災害に関する情報を収集する。 アウトブレイクやパンデミックに至った感染症等の情報を収集する。									
教材 教科書 参考書	教科書：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第5版、医学書院、2024 ISBN978-4-260-05303-7 授業の中で、随時、参考図書を紹介する。									
留意	1) 災害被災者の状況や支援の実際・課題等に関心を持ちニュースや新聞等を読むこと。									

点 | 2) 授業で学んだことから生活における防災・活動の実践を考える。

科目名	研究方法論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-46.H N	単位数 時間	1単位 15時間	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N20022						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	田中 真実 大瀬 富士子(実務経験のある教員) 阿部 智美(実務経験のある教員)			授業 形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 卒業研究および将来の臨床における看護研究に必要なとされる基本的な考え方、知識、技術を修得することを目的とする。また、研究のプロセスに対応した、研究テーマの設定から文献検索・収集、研究計画書の作成といった過程の進め方、研究デザインの決定やデータ解析技法の知識と方法をオムニバスで講義する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの4-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 研究のプロセスを理解できる。 2) 文献検索方法を理解できる。 3) 倫理的配慮について理解できる。 4) 研究デザインの種類について理解できる。 5) 研究計画書の基本を理解し、模擬研究計画書を作成できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	看護研究の意義と研究課程		看護研究とは、疑問から研究課題の焦点化						大瀬	
第2回	文献検索・文献検討		テーマに沿って、関連のある文献検索、文献検討						大瀬	
第3回	倫理的課題		看護研究における倫理的課題						田中	
第4回	事例研究とその進め方		研究方法、データ収集方法の実際						田中	
第5回	質的研究とその進め方		研究デザイン、研究方法、データ収集方法の実際と分析方法						阿部	
第6回	量的研究とその進め方		研究デザイン、概念枠組みの考え方、研究方法、データ収集方法の実際と分析方法						田中	
第7回	研究論文の読み方・書き方		研究のクリティーク、論文執筆のための知識と実際の進め方						阿部	
第8回	研究計画書・研究発表		研究計画書の作成と発表の仕方						田中	
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(わ ずらひ・7991 ブ・レーンダ 等)	グループワーク	ペアワーク	ジグソー・リーディング	理解度チェック	リフレクションシート					
評価方法 及び 評価 基準	<p>1) 振り返りシート、課題を組み合わせで総合的に評価する。2/3以上の出席で評価対象とする。 2) 振り返りシート：授業終了後に提出する。1回10点満点。 3) 課題（模擬研究計画書）：20点満点。</p>									
課題等	全講義終了後、模擬研究計画書を作成する。									
事前事後学修	事前学習として、自分の興味や関心をもつテーマについて検索し、論文に目を通しておく。 事後は、ゼミ指導の前に教科書および授業で配布された資料を読み、理解しておく。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> 教科書：黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第6版、医学書院、2023 ISBN: 9784260052658 資料は、そのつど配布する。 授業の中で、参考図書を紹介する。 									
留意点	振り返りシートは次年度に開講する卒業研究の基礎資料となる。整理して保存し、研究を行う前に必ず目を通すこと。									

科目名	卒業研究		科目ナンバリング	N-NP NI 2-46. H N	単位数 時間	4単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目コード	履修登録届参照		120時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	教授、准教授、講師、助教 (実務経験のある教員)			授業 形態	演習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>この授業は、研究プロセスを経験し、看護基礎、看護実践の各分野において学んできた知識及び技術などを活かして、将来の研究活動や実践活動での研究基盤を構築することを目的としている。年間のスケジュールに応じて、担当教員の指導を受けながら研究を実施し、論文を完成させ、パワーポイントを用いて発表する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの4-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確にできる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 研究を実施できる。(対象者が人の場合、倫理的に配慮できる) 4. 口頭発表用抄録を作成し、パワーポイントを用いながら発表できる。 5. 論文を作成し提出できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
	<p>【 卒業研究の流れ 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究原案提出（決められた期日に提出） 2. 指導教員決定 指導教員が決定した後に、各指導教員と個々に話し合いを行い、研究計画書を立案する。 3. 研究課題の提出（決められた期日に提出）看護学部学務課へ提出する。 4. 研究論文草稿提出（決められた期日に提出） 5. 抄録提出（決められた期日に提出） 6. 卒業研究発表会オリエンテーション 7. 論文提出（決められた期日に提出）看護学部学務課へ提出する 8. 卒業研究発表会 									
授業方法(オンライン等)	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	資料記入	授業中のノート取り	まとめアクティビティ				
評価方法及び評価基準	1. 研究プロセスを含み、提出論文等により評価する。									
課題等	指導教員に要確認									
事前事後学修	指導教員に要確認									
教材教科書参考書	1. 教科書等は、「研究方法論」の科目で紹介する。									
留意点	1. 指導教員と密に連絡をとり、それぞれの提出期日を厳守すること									

科目名	基礎看護学実習 I		科目ナンバリング	N-NP CT 2-48. H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期集中
			科目コード	N31001	時間	45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美、幸山 靖子、村上 翔太郎 (実務経験のある教員)			授業形態	実習	回数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護実践の見学・参加および受け持ち患者の日常生活の援助体験を通して、患者、患者の入院環境、日常生活の援助技術および患者・看護師関係の成立の実際を学び、看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目指して、患者を受け持つて行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3.4.5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1.2 4-1.2 5-1.2に関連する。</p>									
到達目標	<p>1. 患者の療養環境を知る。</p> <p>2. 患者とのコミュニケーション、人間関係の成立について理解を深める。</p> <p>3. 患者に必要な日常生活の援助を理解できる。</p> <p>4. 将来、看護専門職者となるための看護観と態度を養う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	実習オリエンテーション		実習の概要、目的・目標、方法、実習病院の概要の説明、留意事項の説明、身だしなみの確認、事前学習、技術演習						学内	
第2回	施設オリエンテーション、看護の見学、参加、実施		病院・病棟の概要の説明と見学、受け持ち患者への挨拶、援助の見学・実施、報告、カンファレンス						各実習病院	
第3回	看護の見学、参加、実施		受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス						各実習病院	
第4回	看護の見学、参加、実施		受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス(まとめ)						各実習病院	
第5回	実習のまとめ		カンファレンス「実習における学びと目標達成度、自己の課題」、実習記録の整理、レポートの作成						学内	
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	実習、フィールドワーク									
評価方法及び評価基準	実習時間45時間の4/5以上の出席者に対して、基礎看護学実習 I 評価基準に基づき評価する。									
課題等	基礎看護学実習 I 要項を参照すること。									
事前事後学修	基礎看護学実習 I 要項を参照すること。									
教材教科書参考書	1年次に履修した科目に関するテキスト、参考書や資料等を活用すること。									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> この科目の履修要件は、学生便覧を参照すること。 実習時は、指定のユニホームを着用し、言動・身だしなみ等について注意する。看護を学ぶ学生として、品位を保ち、倫理に反しないよう行動する。 実習要項を熟読し、予習・復習を十分おこなって、主体的に臨む。 自己の健康管理に留意し、感染予防策を徹底する。 									

科目名	基礎看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-49. H N		単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期集中
			科目コード	N31002			90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子、阿部 智美、村上翔太郎 (実務経験のある教員)				授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 入院中の患者を受け持ち、看護過程を展開して看護を実践することを通して、患者の日常生活および健康状態を把握し、受け持ち患者に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3.4.5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1.2 4-1.2 5-1.2に関連している。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を統合体として理解し、全体像を捉える。 2. 受け持ち患者の看護過程を展開できる。 3. 日常生活の援助を適切に実践する。 4. 看護職者との医療従事者との連携について理解できる。 5. 看護職として基盤となる倫理観や看護観を培う。 										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考	
第1回	実習オリエンテーション		実習の概要、目的・目標、実習の進め方、留意事項について、事前学習							学内(半日)	
第2回	学内オリエンテーション		実習病院の概要、受け持ち患者の説明、学内演習(バイタルサイン測定技術等の確認)、事前学習、病院実習1日目の実習目標設定							学内(半日)	
第3回	施設オリエンテーション 受け持ち患者の看護		受け持ち患者の紹介、アセスメント、看護、カンファレンス							各実習病院	
第4回	受け持ち患者の看護		アセスメント(情報収集、解釈・分析)、看護、カンファレンス							各実習病院	
第5回	受け持ち患者のアセスメント		アセスメント(情報収集、解釈・分析)、健康上の問題(看護診断)							学内	
第6回	受け持ち患者の看護		アセスメント(情報収集、解釈・分析)、看護、中間カンファレンス							各実習病院	
第7回	看護計画の立案		看護計画の立案							学内	
第8回	受け持ち患者の看護		看護計画に基づいた看護、カンファレンス							各実習病院	
第9回	受け持ち患者の看護		看護計画に基づいた看護、最終カンファレンス							各実習病院	
第10回	実習のまとめ		学内カンファレンス、レポートの作成							学内	
第11回											
第12回											
第13回											
第14回											
第15回											
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	実習、フィールドワーク										
評価方法及び評価基準	実習時間90時間の4/5以上の出席者について、基礎看護学実習Ⅱ評価基準に基づき評価する。										
課題等	基礎看護学実習Ⅱ要項を参照すること。										
事前事後学修	基礎看護学実習Ⅱ要項を参照すること。										
教材教科書参考書	2年次前期までに履修した科目に関するテキスト、参考書や資料等を活用すること。										
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目の履修要件については、学生便覧を参照すること。 ・実習時は、指定のユニホームを着用し言動・身だしなみ等について注意する。看護を学ぶ学生として品位を保ち、倫理に反しないよう行動する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分おこなって、主体的に臨む。 ・自己の健康管理に留意し、感染予防策を徹底する。 										

科目名	健康づくり実習 I		科目ナンバリング	N-NP NP 2-58. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	N31039		45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤史恵 他 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>看護の対象は地域で生活する人々とその家族であり、本実習では地域で生活する人々の生活を知り、生活を支える社会資源にはどのようなものがあるか実際を知る。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-1、3-2、4-2、5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 人々の多様な生活の実際を知る。</p> <p>2. 人々の多様な生活を支える社会資源について知る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
1	オリエンテーション/計画の策定		実習オリエンテーション 計画の策定							
2	計画の修正/実習施設		計画の修正/フィールドワーク							
3	実習施設		フィールドワーク							
4	実習施設/まとめ(学内)		フィールドワーク/グループワーク							
5	実習報告会		グループワークとプレゼンテーション							
			※詳細については別途提示する							
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)										
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、健康づくり実習1評価表に基づき総合的に評価をする。									
課題等	実習記録・レポート									
事前事後学修	<p>事前：地域で生活(暮らし)することを学ぶために、事前に自分の生活を見つめること、生活に必要なこととは何かを考えておく(記録様式4-1)。</p> <p>事後：実際に地域の生活を見てインタビューして学んだことについて自分の考えをまとめてグループワークに臨む</p>									
教材教科書参考書	適宜資料を配布する									
留意点	<p>1) 実習生にふさわしい態度(対人面・学習面)を心がける。</p> <p>2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。</p>									

科目名	健康づくり実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-60. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	N31040		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬富士子・小野綾・齊藤史恵・菅原大輔・高橋義孝・木田優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	[授業の主旨]									
	市町村の健康増進活動を理解すると共に、地域で暮らす人々のセルフケア能力向上に向けた支援ができる基礎的な能力を養う 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー2, 3, 5に関連し、カリキュラムポリシー2-2, 3-1, 5-1, 5-2に関連する									
到達目標	1) 市町村の健康課題を理解できる。 2) 地域で暮らす人々の健康課題を捉えることができる 3) 地域で暮らす人々のセルフケア能力を向上するための健康教育を実践できる。 4) 対象者からのフィードバックを踏まえた健康教育の評価ができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	オリエンテーション/計画の策定 (学内及び実習施設)		実習オリエンテーション 計画の策定/対象地域の情報収集						全員・ 各グループ	
第2回	実習施設		対象地域(施設)の情報収集・調整						各グループ	
第3回	学内または実習施設		健康教育企画書の作成						各グループ	
第4回	学内または実習施設		健康教育指導案の作成						各グループ	
第5回	学内または実習施設		健康教育指導教材の作成						各グループ	
第6回	学内または実習施設		健康教育シナリオの作成						各グループ	
第7回	学内または実習施設		健康教育デモンストレーション						各グループ	
第8回	学内または実習施設		健康教育シナリオ・教材修正						各グループ	
第9回	健康教育(実習施設)		健康教育の実践						各グループ	
第10回	実習の振り返り(学内)		健康教育実施後の振り返り(グループまとめ)						全員	
	※3-8回は 必要に応じて実習施設で行う									
授業方法(オンライン、対面、フィールドワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク								
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者を対象に健康づくり実習評価表に基づき総合的に評価する。									
課題等	レポート、実習記録等は返却する。実習には主体性を持って参加する。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、必ず読み理解する。詳細は実習要項で説明する。									
教材教科書参考書	健康教育論で提示した教材や資料等。									
留意点	1) 社会人としてのマナーを守り、実習する学生にふさわしい態度(対人面、社会面)を心がける。 2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的な行動をする。									

科目名	プライマリヘルスケア実習Ⅰ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-59. H N	単位数 時間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期集中
			科目コード	N31041		45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部 智美 村岡 祐介 村上 優人 村上 翔太郎 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 病を持ちながら生活調整をしている人々が、仲間と共に支え合う活動を通して、地域でどのように生活しているのかその実際を知る。看護への関心・対象理解そして自己理解が深まり、学修への動機づけとなる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-1, 3-2, 4-1, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 生活調整・支援を必要としている人々の生活体験を聴くことができる。 2. 仲間と共に支え合う活動の実際を知ることができる。 3. 看護学を学ぶ意欲に繋げることができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
1	学内	実習オリエンテーション 学内演習		1) 実習オリエンテーション 2) プライマリヘルスケア実習Ⅰの概要説明 3) 傾聴を学ぶ(演習) 4) 聴くための準備						
2, 3	地域1	施設オリエンテーション 対象へのインタビュー		1) 施設(患者会等)の特徴、留意事項等オリエンテーションを受ける。 2) コミュニケーションを通して対象者との関係を形成する。 3) (座談会形式による)グループインタビューを実施する。 4) 学生間で役割分担をして進める。					* 実習2, 3回目の地域は、1→2あるいは、2→1の順番となる。	
	地域2	調べ学習		病を持ちながら生活している人の生活や共に支え合う活動について、多様な情報を通して(新聞・ブログ・手記・市内公共施設の探索・イベント参加など)、その実際を知る。						
4	学内	情報整理(実習グループ毎)		1) インタビュー内容や調べ学習の内容を実習目標に沿ってまとめる。 2) 学生間で役割分担をして進める。						
5	学内	合同報告会		1) グループごとにポスターツアーによる発表し意見交換を行う。 2) 実習目標に沿って実習の学びを共有する。						
授業方法(学びの場、学びの機会)	グループワーク	発表、ポスター作成	ロールプレイング	実習、フィールドワーク						
評価方法及び評価基準	4/5以上出席することにより評価の対象とし、施設での活動・グループ活動への主体的・積極的な取り組み状況を含む実習目標達成度：40点、個人記録：30点、グループでの提出物：30点により評価する。									
課題等	個人課題・グループ課題									
事前事後学修	「体験できて良かった」で終わらず、体験を振り返り、どのような気づきがあったのか、考える時間を作ってください。									
教材教科書参考書	なし									
留意点	実習方法：数名の小グループで、病を持ちながら生活している人々の体験を聴くことや、調べ学習を通して対象理解を深める。学びをまとめ、報告会により学びを共有する。大人としてのマナーを守り、誠実な態度で実習に臨んでください。また、様々な個人情報を知ることもあります。守秘義務を心に留めて実習をしてください。									

科目名	プライマリヘルスケア実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-61. H N		単位数 1単位 45時間	対象 学年	3年～4年	開講 学期	後期～ 前期
			科目コード	N31042						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田まり子 対馬明美 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 病や障害を持ちながら地域で生活する人々が自身の望む生活を実現させるために必要な自助・共助・公助の実際と、看護職が担う支援について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5 に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の健康及び生活に対するニーズを理解できる。 2. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の障害や健康状態をアセスメントし、対象に応じた援助の必要性を理解できる。 3. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の援助の実際を通して、専門看護職の役割を理解できる。 4. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々を取り巻く保健医療福祉の関係機関と現状を理解できる。 5. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々に対する権利擁護や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。</p>									
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修					備考	
実習前	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） プライマリヘルスケア実習Ⅱの概要説明						
1日目	学内	学内オリエンテーション 学内演習		1) 実習の目的・目標・方法の理解を深める 2) 事前準備						
2日目	臨地	施設オリエンテーション 援助の実際		1) 施設(対象者)の特徴、留意事項等オリエンテーションを受ける 2) 施設(対象者)の援助に参加し対象者とのコミュニケーションを通し理解を深める 3) 受け持ちの健康や生活のニーズ、支援について情報収集						
3日目	臨地	援助の実際		1) 受け持ちの対象者への療養上の世話や援助を見学・一部実施する。 2) カンファレンスで1日の学びを共有する 3) 公助やレスパイトケアの必要性、関連機関の実際について記録類や家族のコミュニケーションなどか						
4日目	臨地	援助の実際		1) 受け持ちの対象者への療養上の世話や援助を見学・一部実施する。 2) カンファレンスで1日の学びを共有する 3) 公助やレスパイトケアの必要性、関連機関の実際について記録類や家族のコミュニケーションなどか						
5日目	学内	合同カンファレンス		1) 実習目標に沿って実習の学びを共有する						
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	まとめアクティビティ	ペアワーク				
評価方法及び評価基準	1. 4.5以上出席することにより評価の対象とし、「プライマリヘルスケア実習Ⅱ評価票」に基づき総合的に評価する。									
課題等	個人演習・グループ課題									
事前事後学修	1. 実習施設の特徴や対象となる人々の病や障害について調べる。 2. 病や障害を持ちながら地域で生活する人々の自助・共助・公助について調べる。 3. 地域療養を支える保健医療福祉制度について調べる。									
教材教科書参考書	実習要件に関連した科目の学習資料・テキスト等を復習すること。									
留意点	大人としてのマナーや守秘義務を守り、誠実な態度で実習に臨むこと。実習1～3日目は日々のショートカンファレンス、実習4日目は臨地でのまとめのカンファレンスを行う。実習5日目の学内合同カンファレンスでは、病や障害及び施設の特徴をあらかじめグループ単位で整理し、相互の学びを共有できるように臨むこと。									

科目名	成人看護学実習 I		科目ナンバリング	N-NP CT 2-39. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	後期～ 前期
			科目コード	N31004		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介、村上 優人 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>健康障害を持ちながら生活していく生活者としての成人および高齢者とその家族を、包括的な視点から理解し、対象の健康状態に応じた療養生活支援に必要な実践能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-1、3-2、4-1、4-2、5-1、5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1慢性病にともなう健康障害の身体的・心理的・社会的変化を生活者である対象の軌跡から理解できる。</p> <p>2対象の最良の健康を目指し、看護過程を展開し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。</p> <p>3保健医療チームにおける看護師の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。</p> <p>4看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 成人看護学実習Ⅱの概要の説明						実習グループ 全員出席	
第1回	オリエンテーション		午前・午後（学内）：実習の進め方、留意事項、実習病棟の説明						実習	
第2回	受け持ち患者の看護		<p>1. 慢性期・終末期にある成人期あるいは老年期の患者を原則1名受け持ち、看護過程を展開する。</p> <p>2. 患者が退院後にセルフケア能力を発揮できるように支援する。</p> <p>3. 患者・家族に関わる専門職種間の連携・協働の必要性と看護職の役割や機能を学ぶ。</p> <p>※見学実習は、医療連携室・総合患者支援センター等で行なう。</p>						実習	
第3回	受け持ち患者の看護								実習	
第4回	受け持ち患者の看護								実習	
第5回	受け持ち患者の看護 中間カンファレンス（ケースカンファレンス）								実習	
第6回	受け持ち患者の看護								実習	
第7回	受け持ち患者の看護、見学実習※								実習	
第8回	受け持ち患者の看護								実習	
第9回	受け持ち患者の看護 最終カンファレンス								受け持ち患者に実施した看護の評価、実習の学び、今後の課題について発表し、学生間で共有する。	
第10回	実習のまとめ		学びの共有（各実習グループ合同） 実習記録を整理し、レポートを作成する。 「看護技術チェックリスト」で自分の技術の習得状況を確認する。						グループワーク プレゼンテーション	
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)										
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者について「成人看護学実習評価表」に基づき評価する。									
課題等	各々の受け持ち患者、学習状況によって課題を提示する場合がある。									
事前事後学修	成人看護学実習要項参照									
教材教科書参考書	成人看護学の講義で使用した教科書・参考資料等を整理して実習に使用すること。									
留意点	実習中は主体的に行動すること、健子管理には十分に留意すること。									

科目名	成人看護学実習Ⅱ		科目ナンバリング	N-NP CT 2-51.H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	後期～ 前期
			科目コード	N31006		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	村岡 祐介、村上 優人 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 成人・老年期の発達課題や特徴をふまえ、急性期および周手術期、リハビリテーション期にある対象と、その家族の健康問題を総合的に理解し看護の実践方法を学ぶ。対象のセルフケア能力に合わせた健康問題解決のための援助を行うことにより、既習の知識・技術との統合を目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-1、2、3-1、2、4-2、5-1、2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 急性期や周手術期における対象の健康状態を理解し、健康障害が及ぼす身体的・心理的・社会的変化を理解できる。 2. 対象の最良の健康を目指し、科学的根拠に基づいた看護を実施できる。 3. 保健医療チームにおける看護者の役割と責任、チーム間の連携や協働および関係機関との連携のあり方を理解できる。 4. 看護の対象となる人の権利の保障や倫理的配慮について学び、常に相手を尊重する態度を養う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 成人看護学実習Ⅱの概要の説明						実習グループ 全員出席	
第1回	オリエンテーション		午前（学内）：実習の進め方、留意事項、実習病棟の説明 午後（病院）：実習施設でオリエンテーション						実習	
第2回	受け持ち患者の看護		1. 入院中の周手術期患者を原則として1名受け持ち、看護過程を展開する。 2. 患者が退院後にセルフケア能力を発揮できるように支援する。 3. 患者・家族に関わる専門職種間の連携・協働の必要性と看護職の役割や機能を学ぶ。 ※見学実習は、ICU、HCU、リハビリテーション室のいずれかで 行なう。						実習	
第3回	受け持ち患者の看護								実習	
第4回	受け持ち患者の看護								実習	
第5回	受け持ち患者の看護 中間カンファレンス（ケースカンファレンス）								実習	
第6回	受け持ち患者の看護								実習	
第7回	受け持ち患者の看護、見学実習※								実習	
第8回	受け持ち患者の看護								実習	
第9回	受け持ち患者の看護 最終カンファレンス								受け持ち患者に実施した看護の評価、実習の学び、今後の課題について発表し、学生間で共有する。	
第10回	実習のまとめ		学びの共有（各実習グループ合同） 実習記録を整理し、レポートを作成する。 「看護技術チェックリスト」で自分の技術の習得状況を確認する。						グループワーク プレゼンテーション	
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
授業方法（オンライン、対面、ブレンド等）										
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者について「成人看護学実習評価表」に基づき評価する。									
課題等	各々の受け持ち患者、学習状況によって課題を提示する場合がある。									
事前事後学修	成人看護学実習要項参照									
教材教科書参考書	成人看護学の講義で使用した教科書・参考資料等を整理して実習に使用すること。									
留意点	実習中は主体的に行動すること、健子管理には十分に留意すること。									

科目名	老年看護学実習		科目ナンバリング	N-NP 2-52. H N	単位数 時間	1単位 45時間	対象 学年	3年～4年	開講 学期	3年前期～ 4年後期
			科目コード	N31008						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	小野 綾 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>高齢者の身体面・精神面・社会面を含めた全体像を捉え、必要な看護を実践できる能力を養う。高齢者を継続的に支援していくための病院との連携、地域社会との連携、多職種間の連携の重要性を理解し、支援体制を学ぶ。高齢者支援のために必要な資源や環境を理解する。実習を通して老年観、倫理観、看護観、態度を培う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの3, 4, 5, 6に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を受け持ち身体的・精神的・社会的な面から全体像を捉える事ができる。 2. 高齢者の自立した生活を支援するための看護の役割を理解することができる。 3. 受け持ちケースについて、その人らしい生活を送るための個別的看護が援助できる。 4. 施設での多職種との連携の重要性を理解し、自身もチームの一員として積極的に行動できる。 5. 高齢者や家族、施設スタッフとの関わりを通して、自身の老年観、倫理観、看護観を培い、レポートする事ができる。 6. 専門職としての自覚を養い、高齢者を尊重し尊厳を守る態度を身につけることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
	臨地実習ガイダンス		臨地実習の全体オリエンテーション(臨地実習開始前) 老年看護学実習の概要の説明、事前学習の説明						全員出席	
1	学内オリエンテーション、施設内オリエンテーション		学内オリエンテーション、技術確認 実習の進め方、留意事項、実習施設の概要について説明 受け持ちケースの情報収集						実習グループ全員出席	
2	受け持ちケースの看護		高齢者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 カンファレンスは学生主体で行う。 詳細は老年看護学実習要項に示す。							
3	受け持ちケースの看護									
4	受け持ちケースの看護 施設内カンファレンス									
5	全体まとめ		実習で学んだことをまとめ全員が発表を行う。							
授業方法(わ てい、グループ ワーク等)	実習、フィールドワーク	まとめアクティビティ								
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者を対象に老年看護学実習評価基準により評価する。									
課題等	老年看護学実習要項を参照してください。									
事前事後 学修	老年看護学実習要項を参照してください。									
教材 教科書 参考書	老年看護学の講義で使用した教科書と参考資料、人体の構造の講義で使用した教科書、人体の機能の講義で使用した教科書、各自の自己学習資料、解剖ノート									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指示された感染予防対策は厳守すること。状況に応じ変わる場合があります。 2. 事前学習と実習中の学習を十分に行うこと。 3. 主体性、自律性をもって実習を行うこと。 4. 身だしなみを整えること。身だしなみが整われていない場合は実習施設へ入ることができない。 5. 真摯な態度で臨むこと。 									

科目名	小児看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-53. H N		単位数 時間	2単位	対象 学年	3年～4年	開講 学期	後期～ 前期	
			科目コード	N31010			90時間					
区分	看護実践科目	必修	担当者名	齊藤 史恵 木田 優子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 健康増進や成長発達促進の観点から、あらゆる健康段階レベルにある小児とその家族に対して、健康回復と健康の保持増進への看護援助を実践できるための基礎的知識・技術・態度の修得を目指す。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの1-1, 2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。</p>											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達過程を理解することができる。 2. 小児に親しみ、小児をひとりの人として尊重し、権利を持つ存在であることを理解できる。 3. 成長発達促進の観点から、小児各期に応じた適切な保育を行うための知識と技術を習得できる。 4. 小児の発達段階や疾患の状態に応じた、小児にふさわしい環境について理解できる。 5. 小児の主な疾患および諸症状と、疾患が小児に及ぼす影響を理解できる。 6. 小児の発達段階および疾患の状態に応じて適切な看護を計画・実践・評価できる。 7. 小児と家族の QOL の維持・向上を目指した援助について多角的に考察できる。 8. 小児の医療看護における倫理的課題および看護職者として必要な職業倫理について考え判断するための基礎的能力を身につけ、実践できる。 9. 小児とその家族が抱える問題の解決にあたり、多職種との連携と協働、継続看護の特徴とその役割を理解できる。 											
授 業 計 画												
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 小児看護学実習の概要の説明。事後課題：実習準備						全員出席		
1	保育所実習オリエンテーション（学内）			学内オリエンテーション 実習の進め方、留意事項、実習施設の概要について説明 事後課題：乳幼児の発達の特徴（資料記入）						実習グループ全員出席		
2	保育所実習（保育所）			実習 1、施設オリエンテーション								
3	保育所実習（保育所）			2、保育所の日課にしたがって、担当保育士の指導のもとに保育に参加し、子どもについての理解を深める。								
4	保育所実習（学内）			保育に関連した課題（グループワーク）のポスター作成 成長発達段階にある地域の子どもの現状について理解を深める 課題：地域で暮らす様々な状況にある子どもたち								
5	保育所実習（学内）			課題についてのポスター発表、グループワーク・プレゼンテーション								
6	病院実習（学内、病院）			技術チェック（学内）、施設オリエンテーション（病院）								
7	病院実習（病院）			実習								
8	病院実習（病院）			1、原則として入院している患児1名を受け持ち、看護過程を通して看護の方法・実践を学ぶ。								
9	病院実習（病院）			2、外来を受診する小児と家族に対する看護の特徴および役割を学ぶ 課題：受け持ち患者のアセスメント								
10	病院実習（病院）まとめ			小児看護学実習でのまとめ、実習の評価を発表する。								
				○その他、詳細については、小児看護学実習要項を参照								
授業方法(方法、手段、教材、アセスメント等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	誘導ディスカッション	資料記入	リフレクションシート						
評価方法及び評価基準	<p>保育所実習、病院実習合わせての出席（5分の4以上） 小児看護学実習評価表に基づき必要な知識、根拠ある技術、実習態度を総合的に評価する。</p>											
課題等	事前学習課題については、あらかじめ提示してあるものをもとに実習を行う施設、病院に合わせて学習すること											
事前事後学習	<p>実習初日に、小児看護に必要な看護技術のデモンストレーションを実施していただきます。準備をしっかり行い臨んでください。看護過程展開がスムーズに行えるように授業で学習してきたこと（発達、症状看護、疾患看護）を中心に頭に入れてきてください。 事前・事後学習時間の目安：1日あたり1時間以上</p>											
教材教科書参考書	<p>授業で使用したテキスト、プリントなどの資料を活用すること。 実習に関連した文献は、各自で探し実習場に持参してください。 すぐにものを調べられるような、辞書があれば便利です。</p>											
留意点	<p>① 実習にあたって最も重要なことは感染予防と健康管理である。小児期の感染症について十分に学習して知識を深めておくとともに、感染予防行動を確実に身につけて臨む。自己の健康管理を徹底する。体調不良時は必ず申告すること。冬期の実習においてはインフルエンザなどの予防接種を済ませてから実習に臨むこと(接種していない人も外来で実習することになります。) ② 小児感染症の抗体価が低く予防接種を受けていない場合、実習は認められないのであらかじめ対応しておく。 ③ 実習生にふさわしい態度(対人面・学習面)を心がける。 ④ 主体的に自己の実習内容及到達目標を設定すること。保育所前には、基礎的学力のチェックと病院実習の前には、学生による技術のデモンストレーションを行う。学習が足りないかと判断された場合、実習場に行くことはできません。</p>											

科目名	母性看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-54.H N	単位数 時間	2単位 90時間	対象 学年	3~4年	開講 学期	後期~ 前期
			科目コード	N31012						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	大瀬富士子 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 母性看護の対象（狭義での対象として、妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）の特性を理解し、母子ともに健康に過ごせるように、母子とその家族に対する看護の基礎的な実践能力を養う。退院後や地域での継続した育児支援を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの3-1、3-2、4-2、5-2に関連する。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦と胎児の健康状態を理解し、妊娠期が正常に経過していることが理解できる。 2. 分娩各期の経過から産婦の特徴を理解し、必要な看護がわかる。 3. 褥婦が回復し、心身の変化に適切にいく過程を理解するとともに、健康状態をアセスメントし看護過程展開ができる。 4. 新生児が胎外生活に適切にいく過程が理解するとともに、健康状態をアセスメントできる。 5. 退院に向けて諸条件を整え、家族を含めた指導の必要性が理解できる。 6. 母子にかかわる諸制度と母子保健医療チームの連携について理解できる。 7. 退院後や地域での継続した育児支援を理解できる。 8. 生命の尊厳について学びを深めることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修					備考		
	臨地実習ガイダンス		臨地実習全体のオリエンテーション 事前学習について					実習		
1	オリエンテーション		学内で母性看護学実習オリエンテーション 実習の概要・進め方 母性にかかわる技術確認					実習		
2	施設オリエンテーション、 受け持ちの母子の情報収集①		産褥期新生児期の母子の看護を中心に、 分娩期の看護を行うこともある。					実習		
3	受け持ちの母子の看護②							実習		
4	受け持ちの母子の看護③							実習		
5	受け持ちの母子の看護④							実習		
6	勉強会主催の準備		地域の育児支援勉強会主催準備する。					実習		
7	地域の育児支援		地域における継続した育児支援を学ぶ。					実習		
8	マタニティクラス企画準備 カンファレンス		マタニティクラス企画準備、 カンファレンス、妊婦健康診査情報収集					実習		
9	妊婦健康診査		妊婦1名を受け持ち妊婦健康診査を理解できる。					実習		
10	マタニティクラス運営（学内）、 実習まとめ報告		マタニティクラス運営と「母性看護にかかわる看護職の仕事」 をテーマとし話し合い、イメージ図作成し報告する。					実習		
授業方法(レ ポート、プレゼン テーション 等)										
評価 方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席が評価の対象となります 母性看護学実習評価に基づき、実習目標と実習態度に対する評価 45% 事前学習 10% 毎日の記録、看護過程展開などの記録物 45%									
課題 等	事前学習課題を提示するので作成する 事前に技術確認（新生児観察、沐浴など清潔、褥婦観察、分娩期の看護、出生直後の新生児、新生児蘇生法、 妊婦健康診査、胎児心拍モニタリングなど）を行う									
事前事 後学修	事前に技術チェック（沐浴）を合格できるように練習すること、事前学習の知識の再確認をしておくこと 受け持ち時は母子の看護過程展開した記録をして提出する。									
教材 教科書 参考書	教科書および授業で提示した教材や資料等									
留意 点	グループで協力し合い、学びを共有する。 体調管理に留意して実習に臨む。									

科目名	精神看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-55. H N	単位数 時間	2単位	対象 学年	3~4	開講 学期	後期~ 前期	
			科目コード	N31014		90時間					
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原大輔(実務経験のある教員) 高橋義孝(実務経験のある教員)		授業 形態	講義	単独			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健上の問題を持っている人々を理解し、生活上に表れている障害とその心理状態をとらえ、治療環境をいかに生かしていくか、その治療環境を構成するメンバーの一人としてどのように関わることができるかを学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、4-2、5-1、5-2に関連している。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障がいを持つ人々のケアをとおして精神看護の対象を理解する。 2. 精神に障がいを持つ人々が心の健康を回復するプロセスを理解する。 3. 精神に障がいを持つ人々が社会復帰するための支援方法について理解する。 4. 精神に障がいを持つ人々との関わりをとおして自己洞察できる。 5. 精神に障がいを持つ人々の特徴を理解し、状態に応じた適切な計画および実践する能力を養う。 										
授業計画											
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修						備考	
1	臨地実習ガイダンス			臨地実習全体のオリエンテーション（臨地実習開始前） 精神看護学実習の概要および事前学習の説明							
2	オリエンテーション			学内オリエンテーション 精神看護学実習要項に沿って実習の進め方、留意事項を説明する。また事前学習における知識確認を個別に行う。							
3	施設オリエンテーション 受け持ち患者の看護			<ol style="list-style-type: none"> 1、病棟実習では患者を受け持ち、看護過程を展開する。 (基本情報の収集、情報の分析と解釈、問題点の抽出、問題点の優先順位の決定、看護計画の立案、看護計画の実践と評価) 2、精神科デイケアでは利用者との関わり、生活上の困難について考察する。またメンバーとともに治療プログラムに参加し、その意義について考察する。 3、入院患者や利用者に対する専門多職種役割を知り、それが社会復帰にどのように影響しているのか考察する。 4、入院患者や利用者の生活上の強み（ストレングス）を考察し、ケアに活かす。 							
4	受け持ち患者の看護										
5	受け持ち患者の看護										
6	受け持ち患者の看護										
7	受け持ち患者の看護										
8	受け持ち患者の看護										
9	受け持ち患者の看護										
10	受け持ち患者の看護										
11	学内カンファレンス			学生は受け持ち患者の基礎情報と実際の看護について口頭で発表する。質疑応答を繰り返し学生間で情報共有ができるようにする。							
授業方法(学びのデザイン等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	誘導ディスカッション								
評価方法及び評価基準	看護過程、援助関係、倫理的態度、実践態度、患者や利用者との関わりを網羅した「精神看護学実習評価表」にしたがって評価する。										
課題等	実習の記録物（受け持ち患者の看護過程、レポート、日々の記録など）は毎日更新すること。										
事前事後学修	精神看護学実習要項に記載している事前学習内容に沿って実習の準備を進める。学習時間の目安は1日あたり30分以上。										
教材教科書参考書	精神看護学概論・精神看護方法論・精神看護援助論で使用した教科書および資料を活用する。 精神看護学実習に関連する自己学習資料を活用する。										
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1、記録物は、迅速かつ丁寧に仕上げ、自分の援助体験をもとに意見交換と記録ができるようにすること。 2、実習中は主体的に行動できるよう事前学習を十分に行うこと。 										

科目名	地域看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-61.H N		単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期集 中
			科目コード	N31043			45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田まり子 對馬明美 (実務経験のある教員)				授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域で生活する人々の保健医療福祉の現状を理解し、人々の健康増進・向上のための支援に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-2に関連している。</p>										
到達目標	<p>1. 地域で生活する高齢者の健康や生活を支える保健医療福祉に関する社会資源とその活用の実態を把握できる。</p> <p>2. 地域で生活する高齢者の健康保持増進や生活維持のための社会資源の活用方法を説明できる。</p> <p>3. 地域包括支援センターの活動の基盤となる理念・理論、法制度への理解を深め、看護職の役割を考察できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
1日目	オリエンテーション/講話			1) 実習施設を管轄する市町村の高齢者対策 2) 地域包括支援センターが支援した事例と活用した人的社会資源					全員		
2日目	社会資源			1) 事例が活用した社会資源の整理 2) インタビューガイド作成 3) 地区踏査					グループワーク		
3日目	高齢者を支える人々と社会資源の活用			1) インタビューの実施とまとめ					グループワーク		
4日目	地域で生活する高齢者の健康・生活の維持と社会資源			地域にある社会資源 地域で生活する高齢者の健康・生活の維持					グループワーク		
5日目	実習のまとめ			報告会							
授業方法(オンライン等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	まとめアクティビティ	資料記入					
評価方法及び評価基準	1. 4/5以上の出席者を対象に地域看護論実習評価表に基づき総合的に評価する。										
課題等	実習には主体性を持って取り組む。										
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、必ず読み理解する。詳細は実習要項で説明する。										
教材教科書参考書	授業で提示した教材や資料等。										
留意点	<p>1. 社会人としてのマナーを守り、実習する学生にふさわしい態度(対人面、社会面)を心がける。</p> <p>2. グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、協働する。</p>										

科目名	地域看護学実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-61.H N		単位数 時間	1単位	対象 学年	3～4年	開講 学期	後期～ 前期
			科目コード	N31043			45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田まり子 對馬明美 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域で生活する人々の保健医療福祉の現状を理解し、人々の健康増進・向上のための支援に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2, 3, 4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-2に関連している。</p>										
到達目標	<p>1. 地域で生活する高齢者の健康や生活を支える保健医療福祉に関する社会資源とその活用の実態を把握できる。</p> <p>2. 地域で生活する高齢者の健康保持増進や生活維持のための社会資源の活用方法を説明できる。</p> <p>3. 地域包括支援センターの活動の基盤となる理念・理論、法制度への理解を深め、看護職の役割を考察できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
1日目	オリエンテーション/講話		1) 実習施設を管轄する市町村の高齢者対策 2) 地域包括支援センターが支援した事例と活用した人的社会資源						全員		
2日目	社会資源		1) 事例が活用した社会資源の整理 2) インタビューガイド作成 3) 地区踏査						グループワーク		
3日目	高齢者を支える人々と社会資源の活用		1) インタビューの実施とまとめ						グループワーク		
4日目	地域で生活する高齢者の健康・生活の維持と社会資源		地域にある社会資源 地域で生活する高齢者の健康・生活の維持						グループワーク		
5日目	実習のまとめ		報告会								
授業方法(オンライン等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	ペアワーク	発表、ポスター作成	まとめアクティビティ	資料記入					
評価方法及び評価基準	1. 4/5以上の出席者を対象に地域看護論実習評価表に基づき総合的に評価する。										
課題等	実習には主体性を持って取り組む。										
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、必ず読み理解する。詳細は実習要項で説明する。										
教材教科書参考書	授業で提示した教材や資料等。										
留意点	<p>1. 社会人としてのマナーを守り、実習する学生にふさわしい態度（対人面、社会面）を心がける。</p> <p>2. グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、協働する。</p>										

科目名	在宅看護実習		科目ナンバリング	N-NP CT 2-56. H N	単位数 時間	1単位 45時間	対象 学年	3年～4年	開講 学期	後期～ 前期
			科目コード	N31018						
区分	看護実践科目	必修	担当者名	高田まり子 対馬明美 (実務経験のある教員)			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 地域社会で展開されている在宅看護活動の特徴を学ぶ。訪問看護ステーションを利用する療養者及び家族のニーズや健康状態のアセスメントを行い、必要な援助方法を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2,3,4, 5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2, 3-1, 3-2, 4-2, 5-1, 5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 在宅療養者とその家族の特徴と健康及び生活に対するニーズを関連付けて理解できる。 2. 在宅療養者とその家族の健康の保持・増進・疾病予防に向けた日常生活の援助が実践できる。 3. 在宅療養者の障害や健康状態をアセスメントし、対象に応じた援助が実践できる。 4. 在宅療養者を取り巻く保健・医療・福祉の関係機関と現状が理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
1日目	オリエンテーション		午前学内・午後臨地施設オリエンテーション 午前事前学習の口頭試問、在宅看護技術の自己学習の確認					午前学内・午後臨地実習		
2日目	同行訪問ケースの看護		同行訪問ケースの看護（社会資源・多職種連携を含めた情報収集・7人組を行い、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）					臨地実習		
3日目	同行訪問ケースの看護		同行訪問ケースの看護（社会資源・多職種連携を含めた情報収集・7人組を行い、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）					臨地実習		
4日目	同行訪問ケースの看護		同行訪問ケースの看護（社会資源・多職種連携を含めた情報収集・7人組を行い、訪問目的・計画に応じた看護の実施・評価を行う）					臨地実習		
5日目	学内実習		最終カンファレンス（実習目標の達成状況・実習姿勢等自己の学びを発表し、相互の学びを深める）					学内実習		
授業方法(オンライン、フィールドワーク等)	実習、フィールドワーク	グループワーク	発表、ポスター作成	資料記入	まとめアクティビティ	ペアワーク				
評価方法及び評価基準	1. 4.5以上出席することにより評価の対象とし、「在宅看護実習評価票」に基づき総合的に評価する。									
課題等	個人演習・グループ課題									
事前事後学修	実習要項事前学習の項を参照し、知識の復習・技術の自己練習をして臨むこと。実習終了後、実習目標に沿って実習の学びについてレポートにまとめ、実習記録に綴り提出すること。									
教材教科書参考書	実習要件に関連した科目の学習資料・テキスト等を復習すること。									
留意点	<p>1. 在宅療養を支える看護を修得していること。 2. 実習に当たって最も問題になるのは感染予防と健康管理である。在宅における感染予防行動を確実に身につけて臨むこと。 3. 療養者・家族の生活の場への訪問マナーを守り、実習生にふさわしい態度(対人面・学習面)を心がける。 4. 事前学習を十分に行うこと。</p>									

科目名	看護統合実習		科目ナンバリング	N-PH 2-47. HN	単位数 時間	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目コード	履修登録届参照		90時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	菅原 大輔 他			授業 形態	実習	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 実務に即した実習を通して看護実践能力を高め、これまでに学んだ知識・技術を統合し、医療チームの一員としての看護専門職の在り方を探求する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシーの2-2、3-1、3-2、4-2、5-1、5-2に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主体的に自己の探求課題に取り組み、自己研鑽する能力を高める。 2. 対象の様々な状態をアセスメントし、計画、実施、評価する看護実践能力を養う。 3. チームの一員として実務に即した実習を行い、質の高い看護を実践するプロセスを理解できる。 4. 医療チームにおける看護職の役割を認識し、関連職種との連携・協働の必要性を理解できる。 5. 看護専門職として必要な職業観と倫理観を培う。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
	【統合実習の流れ】									
実習前	看護統合実習ガイダンス			看護統合実習全体のオリエンテーション						
	実習施設別オリエンテーション			急性期・慢性期（リハビリテーション含む）、終末期、精神、重症心身障がい児、母性、在宅の各施設実習、地域包括支援実習における施設別オリエンテーション						
	実習前学修			統合実習の目的・目標、各実習施設の特徴を考慮し、自己の実習課題を設定する。						
2週間 (9日間)	臨地・施設実習			実習施設オリエンテーション 情報収集 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習を行う病院・施設での看護体制を理解し、チームの一員である専門職の自覚を持って看護を実践する。 2. 複数の患者をアセスメントし、状況に応じて優先度を判断しながら適切な看護を実践する。 3. 継続看護、多職種連携について理解を深め連携の大切さを学ぶ。 4. 学内実習では自己の看護実践について情報交換やディスカッションを行う。 5. 自己の看護実践について客観的な振り返りを行う。 						
	実習報告会			「看護が果たす役割」についてグループで発表する。						
	○原則として、毎日カンファレンスを実施			○カンファレンスは司会を決めて行う。 各自が専門職意識を持って参加する。						
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	実習、フィールドワーク									
評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、看護統合実習評価表（実習評価70点、学修姿勢20点、レポート10点）に基づき総合的に評価する。									
課題等	実習要項を参照。									
事前事後学修	実習要項を参照。毎日の実習やカンファレンスを通し、「看護として重要だ」と感じた場面を記録しておくこと。実習終了後テーマを設定し、レポートにまとめ提出する。									
教材教科書参考書	授業で使用したテキスト・プリント・自己学習資料を活用する。									
留意点	チームの一員であることを意識して実習すること。アセスメントとは何かを復習し、主体的に実習に臨むこと。									

科目名	公衆衛生看護管理論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-03. P P	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N40004		30時間				
区分	看護実践科目	保健師 必修	担当者名	中尾 八重子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 地域特性を踏まえ、コミュニティで生活するあらゆる発達段階や健康レベルの人々と、対象集団全体の健康増進を図るための公衆衛生看護管理機能を学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシー1-1、2-1、3-1に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理の目的と特徴を説明できる。 2. 公衆衛生看護管理の具体的な機能とその活動を記述できる。 3. 公衆衛生看護活動における事業・業務管理の考えかたと方法を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動における個人情報の管理と方法を説明できる。 5. 地区活動の基本となる地域の把握と健康課題の抽出ができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	公衆衛生看護活動の構造		地域の把握と健康課題、事業計画、保健師の役割							
第2回	公衆衛生看護活動を支える組織と制度		公衆衛生および公衆衛生看護活動の組織とその特徴、ヘルスプロモーションと健康政策							
第3回	公衆衛生看護管理とは		公衆衛生看護管理活動の定義と目的、特徴							
第4回	公衆衛生看護管理の基本となるもの		公共性、住民の権利保障、職業倫理							
第5回	地域管理 (1)		地域診断の方法 (コミュニティ・アズパートナーモデル)							
第6回	地域管理 (2)		演習：地域の特徴の把握 (既存資料の種類と内容)						グループワーク	
第7回	地域管理 (3)		演習：既存資料に基づく地域の情報のアセスメント						グループワーク	
第8回	地域管理 (4)		演習：アセスメントの統合と分析						グループワーク	
第9回	地域管理 (5)		演習：健康課題の対策						グループワーク	
第10回	地域管理 (6)		発表						プレゼンテーション	
第11回	事業運営・業務管理 (1)		PDCA (Plan-Do-Check-Action) 事業評価							
第12回	事業運営・業務管理 (2)		事例検討の意義と方法							
第13回	情報管理		保健師活動で扱う情報の特徴、記録作成の基礎的知識 演習：記録の質を高めるための書き方							
第14回	組織運営・管理、予算管理		組織としての活動、予算の確保と執行							
第15回	人事管理・人材育成		現任教育、新人保健師の到達目標							
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	発表、ポスター作成								
評価方法及び評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者につき、演習 (地域診断) への取り組みと成果、定期試験等から総合的に評価 2) 演習：40% 3) 定期試験：60% 									
課題等	演習の成果は、返却しない。									
事前事後学修	公衆衛生看護に関する他の科目のテキストや資料の見直し。									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 第6版 医学書院 2022 ISBN978-4-260-04707-4 ・必要に応じて適時、参考資料を配付する。 									
留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「コミュニティ」と関連付けて学習し理解を深める。 2) 演習には主体的にチームの一員としてメンバーと協働して取り組むこと。 									

科目名	対象別公衆衛生看護活動論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-04. P P		単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30054			30時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	川村 泰子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 公的ヘルスケアサービスの中で機能する看護職が、人々の健康・生活を護るための、看護活動の考え方や方法を学ぶ。また、人々の健康及び生活の現状と、それに関連する各種関係法規、施策、社会資源等を、対象別に体系的に学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの3-1に関連している。</p>										
到達目標	1) コミュニティに生活する人々の、健康に寄与する看護の活動方法と重要となる考え方を理解することができる。 2) 人々の健康・生活の現状を、地域特性、対象特性をふまえて理解し、今日的健康課題を考察することができる。 3) 人々の健康・生活に関連する各種法規、施策、社会資源等を理解することができる										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ライフサイクルと公衆衛生看護活動			ライフサイクルにおける保健活動の実際							
第2回	次世代を育むための活動 (1)			我が国の切れ目のない母子保健施策の現状と今後の展望							
第3回	次世代を育むための活動 (2)			母子保健活動の実際							
第4回	次世代を育むための活動 (3)			母子保健活動の実際～児童虐待						グループワーク	
第5回	次世代を育むための活動 (4)			健康上のリスクを持つ母子への支援～障害児						レポート	
第6回	地域の健康づくり (1)			成人期にある人々の健康と生活							
第7回	地域の健康づくり (2)			成人期の人々の健康と保健師活動							
第8回	地域の健康づくり (3)			保健・医療・福祉の連携と予防活動							
第9回	地域の健康づくり (4)			社会資源の開発と実際～セルフ・ヘルプ・グループ (演習)							
第10回	リスクを抱える人々への保健活動 (1)			精神保健活動の実際							
第11回	リスクを抱える人々への保健活動 (2)			対象理解～健康のとらえ方							
第12回	リスクを抱える人々への保健活動 (3)			精神障がい者の社会復帰・地域生活支援						レポート	
第13回	健康危機管理状況にある人々への支援			感染症の動向 (covid-19、結核等)							
第14回	健康危機管理状況にある人々への支援			感染症：結核の制度、疾病管理 (結核)							
第15回	歯科保健活動			生涯を通じた歯科保健活動の実際							
授業方法 (学びのデザイン等)	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート	誘導ディスカッション	理解度チェック						
評価方法及び評価基準	1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5%を加算する。 3) 課題 (レポート) : 20% 4) 定期試験：75%										
課題等	感想シートなどは、返却しない。										
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。										
教科書 教科書 参考書	教科書：対象別公衆衛生看護活動5版 医学書院 2025 978-4-260-05303-7 参考図書：厚生統計協会：国民衛生の動向 2024/2025 宮本ふみ 無名のかたり 医学書院										
留意点	1) 既習科目の「公衆衛生看護学概論」や3年次で学んでいる公衆衛生看護関連の科目と関連付けて主体的に学習する。 2) ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに関心を持つことが不可欠である。										

科目名	学校保健論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-06. P P	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30056		15時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	新谷ますみ (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>【授業の主旨】</p> <p>学校という組織の中で、学校教育の目的達成のために機能している「学校保健」と、そこでの養護教諭の役割について学ぶ。「学校保健」が、学校教育を円滑に進めるための心身の条件としてだけでなく、学校教育の目的の一つとして取り上げられ、教育的配慮のもとに展開されることについて理解を深める。さらに、学校保健の変遷を踏まえながら、現状や課題について考察する。</p> <p>【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】</p> <p>ディプロマポリシーの2、3、4に関連し、カリキュラムポリシーの3-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 学校における人々の健康に関する行政体系・法体系・制度・システムを理解する。</p> <p>2. 学校における人々の健康の実態を把握し、健康課題を理解できる。</p> <p>3. 学校における公衆衛生看護活動の実際を理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	学校保健・看護の動向			学校保健の理念と目的、歴史と現状を理解する。						
第2回	学校保健の制度とシステム			学校保健安全の構成・内容・法規・システムを理解する。						
第3回	学校保健活動(1)			◆演習1:「学校保健の対象の健康」に関するグループワークと発表					ディスカッション プレゼンテーション ディベート	
第4回	学校保健活動(2)			学校保健の対象と健康課題を理解する。						
第5回	学校保健活動(3)			養護教諭の職務を理解する。					ディスカッション プレゼンテーション ディベート	
第6回	学校保健活動(4)			保健室の機能を理解する。						
第7回	学校安全および危機管理			学校環境衛生と学校安全管理を理解する。						
第8回	学校保健における多職種連携			学校保健における他機関・多職種連携の実際を理解する。						
授業方法(付 属資料・7P4 ア・ラング 等)	ディベート									
	ディスカッション、プレゼンテーション									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。</p> <p>2) リフレクションペーパー: 全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。</p> <p>3) 定期試験: 試験結果は満点を95%として評価する。</p>									
課題 等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。									
事前事後 学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。									
教材 教科書 参考書	<p>教科書: 対象別公衆衛生看護活動: 医学書院. 2018 ISBN978-4-260-03187-5</p> <p>参考図書: ①厚生統計協会: 国民衛生の動向. 2022/2023</p>									
留意 点	1) 授業で紹介された文献を読み、自己学習を進める。									

科目名	産業保健論		科目ナンバリング	N-PH NI 4-07.P P		単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30057			15時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	川村 泰子 (実務経験のある教員)				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 少子高齢化に伴い生産年齢人口の減少も予測されている。働く人々の健康の保持増進や快適な職場づくりのために、産業保健分野ではどのような看護活動が行われているの理解する。また、歴史的な変遷を踏まえ、産業保健専門職が果たす役割を考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2, 3, 4に関連し、カリキュラムポリシーの3-1に関連している。</p>										
到達目標	1) 産業の場における健康に関する行政体系・法体系・制度・システムが理解できる。 2) 産業の場における人々の健康の実態を把握し、健康課題が理解できる。 3) 産業の場における看護活動の実際が理解できる。										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容 (授業時間外の学修を含む)			備考
第1回	産業保健の動向	産業保健の役割、歴史と現状 (DVD) 産業保健						DVD			
第2回	産業保健の制度とシステム	産業保健に関わる法律と関係する社会資源									
第3回	産業保健活動1	産業保健の対象と活動の場									
第4回	産業保健活動2	産業保健の基本と産業看護活動									
第5回	産業保健活動3	変化する社会における労働と健康課題									
第6回	産業保健活動4	職場における健康管理と看護職の役割									
第7回	産業保健活動の場と健康課題	産業の場における健康課題とこれからの産業保健を考える						グループワーク			
第8回	産業保健活動と地域連携・課題	産業保健と地域保健の連携・課題について考える									
授業方法(学びのデザイン等)	グループワーク	発表、ポスター作成	リフレクションシート								
評価方法及び評価基準	1) 2/3以上の出席者について、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて、総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：すべての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。										
課題等	リフレクションペーパーは返却しない。										
事前事後学修	授業で紹介する参考図書を読んでください。										
教材教科書参考書	教科書：対象別公衆衛生看護活動第5版 医学書院 2025 978-4-260-05303-7 参考図書：厚生統計協会 国民衛生の動向 2024/2025 随時、資料の配布や参考図書を紹介する。										
留意点	1) 授業で紹介された文献を読み、主体的に学修をする。 2) 社会の動きに関心を持ち、ニュースなどを読み考え、学んだことと関連させながら理解する。 3) 他の科目で学んだことと関連させながら、理解する。										

科目名	ヘルスプロモーション論		科目ナンバリング	N-NP NI 4-05. P P	単位数 時間	1単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目コード	N30055		15時間				
区分	看護実践科目	保健師 必修	担当者名	中 尾 八重子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>[授業の主旨] 近年、我が国において重視されているヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康づくり活動について学習する。自治体の具体的な実践活動をもとづいて、理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシー1-1、2-1、3-1、4-1、5-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) ヘルスプロモーションの考え方を説明できる。 2) Health for All の実現に向けた健康政策の進め方や公衆衛生行政の役割を説明できる。 3) 日本における健康づくりの変遷と実際を記述できる。 4) 地域の健康づくり対策を提言することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ヘルスプロモーションとは		ヘルスプロモーションの基本的な考え方、背景							
第2回	健康増進		一次・二次・三次予防 健康増進法の目的・基本方針							
第3回	ヘルスプロモーションとMIDORI理論		MIDORI理論とは							
第4回	地域の健康づくり対策 (1)		演習：健康問題とその背景 (MIDORI理論活用)						グループワーク	
第5回	地域の健康づくり対策 (2)		演習：対策の考え方 (MIDORI理論活用)						グループワーク	
第6回	地域の健康づくり対策 (3)		演習：健康問題解決に向けた対策						グループワーク	
第7回	地域の健康づくり対策 (4)		発表 課題：地域における健康づくり						プレゼンテーション	
第8回	日本における健康づくり		日本の健康づくりの変遷 健康日本21 健やか親子21							
授業方法(オンライン、対面、ブレンド等)	グループワーク	発表、ポスター作成								
評価方法及び評価基準	<p>1) 2/3以上の出席者につき、演習への取り組みとその成果、課題（レポート）、定期試験等から総合的に評価。 2) 演習（課題）：40% 3) 定期試験：60%</p>									
課題等	課題（レポート）は、返却しない。									
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むこと。									
教材教科書参考書	教科書：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第5版、医学書院、2023 ISBN978-4-260-05002-9									
留意点	<p>1) 演習に主体的にチームの一員として他のメンバーと協働で取り組むこと。 2) 公衆衛生および公衆衛生看護と関連する他の科目で学んだことと関連させ、理解を深める</p>									

科目名	公衆衛生看護学実習		科目ナンバリング	N-Ph 4-05.P P	単位数	5単位	対象学年	4年	開講学期	前期
	科目コード			N31016	時間	225時間				
区分	看護実践科目	保健師必修	担当者名	中尾 八重子 (実務経験のある教員)			授業形態	実習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 生活背景や家族関係、社会との関係等を含めて公衆衛生看護の対象である地域で生活している人々を理解する。また、個人・家族、集団のニーズに対応し、健康の保持増進に向けた支援と公衆衛生看護に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、4、5に関連し、カリキュラムポリシー1-1、2-2、3-1、4-2、5-1、5-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 地域保健（保健所・市町村） 1) 公衆衛生看護活動における保健所と市町村の機能と役割を説明できる。 2) 地域の人々の健康と生活の情報をアセスメント・分析し、健康・生活課題を明らかにすることができる。 3) 地域で生活する人々の健康と生活のニーズを明らかにし、健康の保持増進に向けた家庭訪問と健康教育が実践できる。 4) 個人・家族、集団の健康問題の解決のための基本的な支援技術の特徴を説明できる。 5) 個人・家族、集団、地域の健康・生活課題の抽出や解決のために必要な社会資源とその活用および地域ケアシステムとの関連について考察できる。 6) 保健所・市町村における公衆衛生看護（保健師）の役割と公衆衛生看護管理の特徴を説明できる。 2. 産業保健 ・ 事業場における保健活動を理解し、働く人々の健康の保持増進のための支援と看護活動を考察できる。 3. 学校保健 ・ 学校における保健活動の概要を理解し、養護教諭の役割を考察できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
	【公衆衛生看護学実習の流れ】									
1	実習ガイダンス（半日）		実習の全体像・事前学習等							
2	実習オリエンテーション（半日）		実習目的や目標、実習内容、実習の進め方、留意事項等							
3	保健所実習 (学内1日間・臨地4日間)		青森県立の2保健所 東地方保健所、三戸地方保健所 保健所における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ（4日間） 実習最終日には各保健所においてカンファレンスを行う カンファレンスの運営は学生が行い、必要に応じて資料を準備する。							
4	市町村実習 (学内5日間・臨地10日間)		実習市町村の地域診断 健康教育指導案の作成 青森県内の4市町村 黒石市・南部町・六ヶ所村 市町村における公衆衛生看護活動の実際を学ぶ（10日間） 実習施設において日々・中間・最終カンファレンスを行う。 カンファレンスの運営は学生が行い、必要に応じて資料を準備する。						グループワーク ディベート プレゼンテーション 実習 フィールドワーク PBL	
5	地域保健のまとめ（学内1日間）		学びの共有とグループワーク							
6	事業場（1日間）		産業保健担当者の講話・演習等							
7	学校（1日間）		産業保健担当者の講話・演習等							
8	まとめ（学内1日間）		学びの共有とグループワーク							
※詳細については別途提示する										
授業方法(わ ず、ド、フ、 ア、シ、ン、グ 等)	グループワーク	実習、フィールドワーク	PBL（問題解決型学習）	発表、ポスター作成						
評価方法 及び 評価 基準	4/5以上の出席者につき、公衆衛生看護学実習評価表に基づき総合的に評価をする。									
課題等	グループでの取り組みの地域診断・健康教育の記録物は、返却しない。									
事前事後学修	実習市町村の地域診断を行う。2年次に学習した健康教育の企画書や指導案作成の考え方や様式を見直す。実習機関の管轄地域について、情報を収集し整理する。									
教材 教科書 参考書	公衆衛生学および公衆衛生看護学の関連科目の教科書・国民衛生の動向・授業で提示した教材や資料等									
留意点	<p>1) 実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。実習施設によっては、宿泊を伴うため実習時間以外の行動においても社会人としてのマナーを守る。 2) グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。 3) 上記の教材を活用し、実習（学習）の理解を深めること。</p>									